勝利の伝説シェブロンラインは最高級品の証。

"Chevron-Line" ist der Beweis höchster Qualität.

勝利をめざすなら、選ぶべきだ!

——無言の威圧感を与えるヒュンメル——

DOUBLE SCORE

総発売元 株式会社 ダブルスコア／総代理店 大松貿易株式会社

大阪市南区難波新地3-27プリンスビルB1　〒542 TEL.(06)213-6646

魅力あるスポーツへ

(財)日本ハンドボール協会
会長 斎藤 英四郎

財団法人化して二期目の会長に再任され、あらためて心の引締まる思いが致します。

できるだけ多勢の人にハンドボールを楽しんでいただきたい、というのがわたしの夢です。観客が少ないと新聞にも載らない、プレイヤーも物足らない。オリンピックに勝たねば人気は湧かないという一面もあるかも知れませんが、皆なで知恵を絞り合って、是非魅力あるハンドボールにしたいものです。

ロサンゼルス・オリンピックにも是非勝って貰いたいが、予選を勝ち抜くためのアジアの情勢は厳しくなってきています。いままでと同じやり方では、アジアの壁は破れなくなるのではないかと思われます。これも、どうか関係者全員一丸となって目標を達成し、ファンの期待に応えて欲しいと思います。わたしも、会長として些かなりともお役に立ちたいと念じております。

今こそ組織の力で

(財)日本ハンドボール協会
専務理事 大野 金一

私は、このたび理事各位のご推挙により専務理事に就任することになりましたが、その職責の重大さをあらためて痛感しております。

旧日本協会の理事長の時期を含めると十数年の長きに亘り専務理事をつとめられ、内外ともハンドボール界を代表して来られた荒川清美氏の後を引継ぐことは容易ならざることではありますが、重要な課題が山積みしているときだけに、関係各位のご協力をいただいて、全力を傾注していく所存ですのでよろしくお願いします。

まず強化関係ですが、ナショナルチームと常務理事の接点となる強化担当常務理事が長期間空席だったこともあって、コミュニケーションに欠け、お互いに隔靴掻痒の感を抱いていたことは否めません。この点を十分反省し、ナショナルチームが強化の実を十分にあげられるよう、強化部長を中心に常務理事全員がバックアップできるような体制をつくりたいと思います。とにかくロサンゼルス・オリンピック・アジア予選まであと半年しかありません。アジアにおける日本の相対的低落化傾向は、何としてでも食い止めなければなりません。

つぎに、もう一本の柱になる普及関係についてですが、ここ十年間の高校、大学におけるハンドボールの普及はめざましかったといえます。ところが、社会人になるとハンドボールをやめてしまう。これには、ハンドボール競技がハード過ぎる、仲間がいない、場所がない、といったこの競技特有の事情があると思われますので、これをどのように克服していくかが課題であります。

また、各種競技におけるナショナル選手、とくに女子選手の低年齢化傾向を考えると、小学生に対するハンドボールの指導が喫緊事であります。小学生の体力に応じた指導体系の確立と指導者の養成が緊要であります。学校教育の枠内で難しければスポーツ少年団やスポーツクラブなどの育成も必要となりましょう。

何はともあれ、ハンドボールに対する情熱と英知を結集して実行に移していくことです。

幸い、識見と経験に富んだ方々が多数理事に参加していただいたので、専務理事としては、理事の皆さんが十分その力を発揮できるよう奉仕していく精神で、事に当たっていきたいと思っております。

『ハンドボール』

58年4月号（第217号）目次

ごあいさつ……(1)
会長 斉藤英四郎
専務理事 大野 金一
新執行部決まる……(2)
第6回全国高校選抜大会
＜男子＞……(4)
＜女子＞……(10)
公認コーチ養成講習会……(16)
強化部総会議事録……(20)
小学生のハンドボール指導における一考察…角 紘昭…(24)
昭和58年度事業計画予定表…(26)
各地の記録……(28)

【表紙写真】(財)日本ハンドボール協会のマークです。

昭和58・59年度評議員名簿									(財) 日本ハンドボール協会
No.	所属	氏　名	勤務先	役職	No.	所属	氏　名	勤務先	役職
○1	北海道	吉田　正紀	札幌星園高校	事務局長	○27	大阪	小西　清海	トヨビスタ北大阪KK	会長
○2	青森	太田　尚充	弘前大学教養部	会長	28	兵庫			
○3	岩手	箱崎　政吉	宮古高校	副会長	○29	奈良	森田　正英	森田接骨院	会長
○4	宮城	高橋　善幸	県会議員	会長	○30	和歌山	山田　進		副理事長
○5	秋田	豊島　慶男	秋田工業専門学校	常務理事	31	鳥取	松本　吉司	境港市役所	副理事長
○6	山形	五島　訓二	米沢女子高校	審判長	32	島根	上田　正吉	江東中学校	副理事長
○7	福島	関川　正道	福島高校	理事長	○33	岡山	猪原　昭	岡山東商業高校	理事長
○8	茨城	柏崎　茂	笠間高校	理事長	34	広島	平田　幸男	修道高校	理事長
○9	栃木	高橋　隆夫	足利工業高校	理事長	○35	山口	藤田　信義	山口大学教養部	副会長
○10	群馬	高橋　潔	高崎女子高校	理事長	○36	香川	松原　忠	高松工芸高校	理事長
○11	埼玉	金子　永治	戸田高校	常任理事	○37	徳島	前田誠之助	城ノ内高校	副会長
○12	千葉	浮谷　貞雄	村本建設(株)	会長	○38	愛媛	高橋　満年	新居浜市民体育館	副会長
○13	東京	岡村　昭二	武蔵村山東高校	理事	39	高知	酒井　満	土佐高校	理事長
○14	神奈川	佐分　正典	東高校	理事長	40	福岡	小袋　是郎	京都高校	副会長
○15	山梨	古屋　正	県民生活センター	副会長	○41	佐賀	甲斐　忠義	神埼農業高校	理事長
○16	長野	柳沢　民爾	小諸商業高校	理事長	42	長崎	青井　正弘		副会長
○17	新潟	渡辺五郎兵衛	佐渡五旅館	副会長	○43	熊本	井　薫	山鹿立石電機(株)	常任理事
18	富山	山口　吉弘	有磯高校	常任理事	○44	大分	福田　稔	県立聾学校	理事長
19	石川	若山　博	金沢美術工芸大学	理事長	○45	宮崎	坂本　平	県健康増進センター	副会長
○20	福井	竹田　弘	羽水高校	理事長	○46	鹿児島	堀ノ口貞男	牧之原学園	理事長
21	静岡	久保田龍治	静岡農業高校	理事長	○47	沖縄	平仲　孝榮	糸満高校	理事長
○22	愛知	幸村　稔		理事長	○48	実連	田中　滋章	タヨシ産業(株)	副会長
23	三重	鈴木　義男	ジャスコ(株)	副理事長	○49	教職員連	山田　計	大阪市立工芸高校	会長
○24	岐阜	上妻　忠夫	大垣東高校	副理事長	50	学連	久保　義雄	久保商事(株)	理事
○25	滋賀	尾木　和男		会長	51	自衛隊連	古庄　昌雄	自衛隊北熊本	常任理事
○26	京都	岩本　定男	京都北大路千本郵便局	常任理事	52	高体連	三浦　公	関東学院高校	副理事長

注　1.「役職」とは，58年2月現在，都道府県協会・連盟などの役職です。
　　2.「27大阪」「48実連」は変更手続中，「28兵庫」は県協会役員改選後に決定されます。

常務理事分掌事項

1 総務担当常務理事
(1) 常務理事会、理事会、評議員会、顧問参与会議、都道府県理事長会議等の開催に関すること。
(2) 文部省、財団法人日本体育協会等との連絡に関すること。
(3) チーム及び選手の登録に関すること。
(4) 契約(公認・放送権等)に関すること。
(5) 役員、委員、職員の任免および登録手続に関すること。
(6) 給与等に関すること。
(7) 物品の検収に関すること。
(8) 備品等の管理に関すること。
(9) 文書の発送収受に関すること。
(10) その他、他の常務理事の所管に属せざる事項

2 企画担当常務理事
(1) 事業計画の立案策定に関すること。
(2) 事業実施の調整に関すること。
(3) 企画委員会に関すること。

3 財務担当常務理事
(1) 予算の策定に関すること。
(2) 財務委員会、財源問題プロジェクトチームに関すること

4 会計担当常務理事
(1) 会計に関すること。
(2) 決算に関すること。

5 広報担当常務理事
(1) 広報に関すること。
(2) 広報委員会に関すること。

6 機関誌担当常務理事
(1) 協会の機関誌の編集に関すること。
(2) 機関誌編集委員会に関すること。

7 国際部担当理事
(1) IHF、AHF、外国の協会その他の団体との交渉、連絡に関すること。

8 競技担当常務理事
(1) 競技会実施の組織および運営に関すること。
(2) 競技会における競技全般の統括に関すること。
(3) その他競技に関する他の常務理事の所管に属せざる事項

9 普及担当(総括)常務理事
(1) ハンドボール競技の普及のための計画の調整に関すること。
(2) 普及委員会に関すること。

10 小学校担当常務理事
(1) 小学校におけるハンドボール競技の普及のための計画の策定および実施に関すること
(2) 小学校委員会に関すること

(財)日本ハンドボール協会新執行部

- 会長 斎藤英四郎(新日鉄会長)
  - 副会長 荒川清美(日体大教授)
  - 専務理事 大野金一(弁護士)
    - 総務担当常務理事　大野金一(兼)
    - 企画担当常務理事　村田　弘(大阪府協会副会長)
      - 企画委員会
    - 財務担当常務理事　山田　稔(実連理事長)
      - 財務委員会
      - 財源問題プロジェクト(委員長・副会長)
    - 会計担当常務理事　高田日呂美(千代田区教育委員会)
    - 広報担当常務理事　滝口三郎(東京都協会理事長)
      - 広報委員会
    - 機関紙担当常務理事　北川勇喜(日体大)
      - 機関紙編集委員会
    - 国際担当常務理事　境井秀三(電電公社)
    - 競技担当常務理事　安藤純光(法政大)
      - 競技委員会
    - 普及指導部長　入江信太郎(関東協会理事長)
      - 普及委員会
      - 小学校担当常務理事　伊藤和夫(愛知県協会理事長)
        - 小学校委員会
      - 中学校担当常務理事　伊藤和夫(兼)
        - 中学校委員会
      - クラブ担当常務理事　中沢重夫(学連理事長)
        - クラブ委員会
      - 指導者担当常務理事　大西武三(筑波大)
        - 指導者育成委員会
    - 技術研究担当常務理事(未定)
      - 技術研究委員会
    - 審判担当常務理事　岡前義春(都立五商高)
      - 審判委員会
    - 強化部長　渡辺慶寿(自治医科大)
      - 強化担当常務理事　平岡秀雄(東海大)
      - 強化担当常務理事　村田　弘(兼)
      - 強化担当常務理事　北川勇喜(兼)
        - 強化委員会
    - 日本リーグ担当常務理事　安藤純光(兼)
    - 日本リーグ担当常務理事　岡前義春(兼)
    - 日本リーグ担当常務理事　北川勇喜(兼)
  - 副会長※
  - 副会長※

※未定の副会長2名は定員増員の寄付行為変更のうえ決定する。

(3) スポーツ少年団におけるハンドボール競技の普及および指導に関すること。

11 中学校担当常務理事

(1) 中学校におけるハンドボール競技の普及のための計画の策定および実施に関すること

(2) 中学校委員会に関すること

12 クラブ担当常務理事

(1) ハンドボールクラブの育成および指導に関すること。

(2) クラブ委員会に関すること

13 指導者担当常務理事

(1) スポーツ指導者の育成指導に関すること。

(2) 公認コーチの育成指導に関すること。

(3) 指導者育成委員会に関すること。

14 技術研究担当常務理事

(1) 技術に関する情報の収集およびその分析に関すること。

(2) 技術研究委員会に関すること。

15 審判担当常務理事

(1) 公認審判員の審査に関すること。

(2) 審判の講習に関すること。

(3) 審判技術の確立に関すること。

(4) 競技規則の研究に関すること。

(5) 審判委員会に関すること。

16 強化担当常務理事

(1) 競技力の向上に関すること

(2) ナショナルチームの強化に関すること。

(3) トレーニングドクターに関すること。

(4) 強化委員会に関すること。

17 日本リーグ担当常務理事

(1) 日本ハンドボールリーグの組織および運営に関すること

(2) 日本ハンドボールリーグ運営委員会に関すること。

第6回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

男子・久留米工大付 女子・山陽女子 が初優勝に輝く

第6回全国高校選抜大会は、3月24日から28日までの5日間、愛知県体育館に男女各校が参加して開催された。

試合は、男子は久留米大附属が、女子は山陽女子が各試合とも安定した戦いぶりで勝ち進み、ともに初優勝を飾った。

男子

▽1回戦

尼崎小田 20（14－10／6－9）19 四日市工
（兵庫）　　　　　　　　　　　（三重）

○…四日市のスローオフで始まったが、尼崎は粘りのあるディフェンスでつけ込むスキを与えず、初得点は尼崎のセンタンへの回り込みのシュート。一方、四日市はペナルティー、速攻と得点のきっかけはあったがいずれも得点ならずパス、シュートのミスの目立つ苦しい立ち上がりとなった。15分過ぎエンジンのかかりの遅かった四日市は、相手のパスミスからの速攻で同点、さらに20分過ぎにステップシュートで逆転した。勢いに乗った四日市は、スカイプレーなど多彩な攻めでジリジリと点差を広げ、9対6とリードして前半を終了。

後半に入って攻守共に動きが止まってしまった尼崎に比べ流れに乗った四日市は着実に得点していったが、四日市の4番の退場をきっかけに点差が縮まり、10分過ぎには尼崎7番のサイドシュートで同点となった。その後追いついては引き離されるゲーム展開となったが、残り4分、尼崎は初得点の時と同じ回り込みで遂に逆転、さらに残り30秒、ペナルティーを拾いキャプテン篠原のシュートで決勝点をあげ、20対19でゲーム終了。

市　川 14（5－4／9－3）7 函館有斗
（千葉）　　　　　　　　（北海道）

○…立ち上がり10分両チーム共堅さが見られ、お互いに攻撃のリズムがつかめず、有斗はペナルティーと速攻で2点、市川は11番のカットインで2点と緊迫したゲーム展開となった。11分過ぎ有斗は5番の回り込みからのミドルシュートでリード、17分過ぎには今度は市川がフリースローからのフォーメーションで逆転。前半はお互いに力を出し切れないまま終了した感じで、結局5対4と市川がリードという結果であった。両チーム共洗練されてはいるもののこれといって決め手がなく、なかなか加点することが出来ない。有斗は身長のあるチームではないが、全員がよく動き守って速攻という高校生らしいチームであるが、ただ攻撃がフェイントに頼りすぎのきらいがあって攻めがディフェンスに近く、何度もパスカットの場面があった。

後半に入り、市川がようやくリズムをつかみ、また、GK平松の好守に助けられ着々と加点した。有斗は後半ややディフェンスが甘くなり、ペナルティーを与える結果となってしまい、必死に反撃するも及ばず結局14対7と大差ではあるが惜敗したゲームであった。

岡崎城西 24（10－1／14－8）9 青 森 商
（愛知）　　　　　　　　　　（青森）

○…激戦地愛知を勝ち抜いてきた岡崎城西、かたや東北の雄・青森商の好カードは、前半、岡崎城

西が固い守りからの速攻が鮮やかに決まり、青森商のロング攻撃の調子を出させるスキを与えなかった。そして、後半になるとやっと青森商にエンジンがかかりロングが決まり出してほとんど互角の対決となったが、城西の前半の貯金分のばん回は出来なかった。青森商にとっては、城西の地元応援でやりにくかったのは確かであり、前半に調子が出なかったのが悔やまれる。

岩国工（山口） 28（18―7 / 10―9）16 東山（京都）

○…初出場の京都・東山と激戦地山口の岩国工の対戦は、前半は両校ともフェイントからサイドへパスをつなぐサイド攻撃を主体とした攻撃の展開となった。前半5分、岩国はサイドシュートとペナルティを決めて3対1とリード、しかしながら東山は10分～12分に速攻を3本連続して4対3と逆転その後均衡した攻防が続き前半は岩国の1点リードで終わる。

後半に入り岩国は立ち上がりペナルティスロー2本で12対9とリードを広げ、のびのびとした動きになり速攻、ミドルと多彩な攻撃を展開し5分～12分まで6連続得点で一気に勝負を決める。その後も攻撃の手をゆるめることなく着々と加点していった。一方、東山は後半に入ると前半に見られた粘りがなくなり、岩国に思う存分走られてしまったのが敗因となった。

久留米工大附（福岡） 28（12―8 / 16―5）13 湯沢（秋田）

○…両チーム共一八〇cmを越える選手が数名いる大型チーム同士の対戦で好ゲームが期待されたがゲーム展開は、前半開始から湯沢が久工大・片山にマンツマン・ディフェンスを行なったが、久工大は中西のミドルシュート、クイックシュート、永松、坂田のフェイントからのカットインプレーなどにより着実に加点した。一方湯沢は長身を生かしたロングシュートで攻撃するが、全体にシュートが単発でコースも甘く、得点にならず前半開始10分まで無得点の状態だった。その後もゲームの流れは変わらず前半終了時には16対5と大差がついてしまった。

後半、湯沢はマンツーマンをやめ流れを変えようとしたが、久工大の攻撃はスピードに乗った早い攻めでさらに加点をした。湯沢も残り10分から速攻などで反撃したが前半の失点が大きく響いた。

氷見（富山） 24（14―7 / 10―7）14 星陵（静岡）

○…立ち上がり氷見が速攻、サイド、カットインからたて続けに得点を重ね4対0とする。星陵も3本のサイドシュートで反撃、必死に食い下がる。結局、前半は10対7と氷見がリードして終了。星陵は一八〇cm以上の選手を5人も揃えており、身長を生かした攻撃が見られると予想されたが、前半はポストとのコンビもとれておらず全くの空回りであったようだ。

後半に入り、星陵が攻めあぐんでいる間に氷見のエンジンが徐々にかかり、スピードとテクニックで押し気味に進めた。星陵は氷見のスピードにつききれず、ディフェンスの間を割られる場面が数多く見られるようになった。氷見は身長こそないがフットワークでがっちり守り切り追加点を許さなかった。結果的には24対14と氷見が快勝した試合であった。

桃山学院（大阪） 17（10―9 / 7―7）16 松山北（愛媛）

○…前半立ち上がり両者共に堅さが見られ細かいミスが多かった先取点は桃山学院が、その後松山北がロングシュートで同点、両チーム共攻めのポイントがずれており、ボール回しで5分間1対1が続く。10分、松山北のサイドシュートで点が動き出す。速攻、セットの攻撃の桃山学院に対し、ロングシュートを主体とした松山北と対象的なチーム同士の試合展開になった。前半終了前に松山北の4番のカットインで7対7のシーソーゲームで前半を終えた。

前半同様後半もシーソーゲームの始まりとなった。両チーム共それぞれの持ち味を生かし、スカイプレー、カットインプレーと得点を重ねていった。7分松山北5番の退場から桃山学院5番のサイドシュートで逆転、10対9となる。その後、桃山学院が速攻、ペナルティと続け14対10まで引き離す。しかし、松山北も食い下がり20分15対14、残り1分17対16と1点差の緊張したゲームが続いたが、タイムアップの笛で松山北も力尽きた。

富岡（群馬） 23（12―8 / 11―5）13 大分電波（大分）

○…両チーム共特出すべきプレーヤーは見られず、スピードを生かしたフェイントやカットインを武器とするチームである。立ち上がりやや両チームに堅さが見られパスミス、キャッチミスが多く雑な攻撃が目立った。次第にやや個人プレーに勝る富岡がフェイントプレーを多用し、相手ディフェンスを切り崩しにかかり11対5とリードして前半を終了した。大分電波もチャンスはなかったわけではなく、相手チーム3回の退場のチャンスに2対3と逆に負けこしたのが試合展開を苦しくした。

後半に入っても大分電波の攻撃が中央に集まり分厚いディフェンスの上から強引なシュートが相手の速攻につながり後半15分18対10とリードは徐々に開いた。得点差が開くにつれ緊張感の切れた大分電波にキャッチミス、ディフェンスの連携が甘くなり、最終的には23対13と大差になってしまった。

松江工（島根） 20（11―11 / 9―8）19 釧路湖陵（北海道）

○…両チーム共ぎこちない立ち上がりで、松江工4番のハーフ速攻で先取点を上げたが釧路湖陵も4番がロングで同点とする。その後松江は7番、3番のロングで加点していった。10分過ぎになって湖陵2番のペナルティスローで点が動き出しシーソーゲームとなっ

た22分、湖陵のスカイミスから松江が同点、終了間ぎわに松江の3番がずらしより飛び込んで前半は松江工の1点リードで終わった。

　後半に入り湖陵3番のロング、ペナルティ、ずらしから得点し、ペースをつかんだかに見えたが、ディフェンスのすきをつかれ2番のペナルティ、3番のステップと打ち込まれあっさり同点とされた。その後点の取り合いとなったが、松江は11分速攻などにより連取し3点リード。湖陵も必死に食い下がり1点差まで詰め寄ったが、遂にタイムアップの笛がなった。

▽2回戦

尼崎小田 23（11―6／12―12）18 高知追手前（高知）

○…追手前のスローオフで始った30秒後3番のカットインで先取点。5分尼崎小田が相手のミスから速攻を決め3対1となる。追手前は11番を中心としたロングプレー、一方尼崎小田は速攻とセット攻撃によるプレーの戦いになった15分、尼崎小田が速攻でじりじり点差を広げ11対6で前半を終了する。後半両チーム共動きが良くなり点の取り合いとなる。12分、17対13で尼崎小田がリード、さらにディフェンスの甘い追手前が尼崎小田の追加点を許し20対15と5点差に開く。その後も尼崎小田がセット攻撃で加点し23対18で終了。

浦添 24（15―6／9―8）14 市川（沖縄）

○…前半立ち上がりに浦添はポイントゲッター松田甚がロングを決めて先制、3分、5分、7分と加点、早々と4点リードした。一方、市川は7分過ぎ矢吹がペナルティを決めてやっと得点、しかし細かいミスが目立ち、攻撃、守備に今一つリズムに乗れない。また、GK平松も前日見せた冴えもなく点差は広がるばかり。浦添は中盤に入ってもリズムも良く、スピードに乗った攻撃をくり広げ、松田のロングシュートを中心に相手ミスから速攻に結びつけどんどん加点していく。前半が終ってみれば15対6と浦添の一方的なゲーム展開であった。

　後半は市川も互角の試合展開を見せたが、しかし浦添の前半のリードが物を言い、浦添の力で押し切った試合であった。

小松 17（8―7／9―8）15 岡崎城西（石川）

○…前半立ち上がり、小松の小技を織り混ぜたセット攻撃に岡崎城西はディフェンスのペースが合わず、ミドル、サイドシュートを許した。15分、小松一人の退場の間に城西得点差をつめるが、持ち前の速攻のリズムに乗れずミスを重ねているうちに小松1点リードで前半を終了した。後半、リードする小松は個人技で城西ディフェンスを崩し得点を重ね、城西は速攻で追う形となるがノーマークの速攻シュートを連続ではずし逆転機を逃した。小松の粘りのある攻撃に城西は最後まで速攻のリズムに乗れないまま終った試合だった

川口北 22（8―7／14―14）21 岩国工（埼玉）

○…川口北がペナルティで先行すれば岩国工はカットインで得点両チーム共にディフェンスが固く互いに譲らないゲーム展開となった。8分、岩国工4番のシュートをきっかけに得点を重ね試合の主導権を握り、岩国のペースで試合が進んだが川口北もよく食い下がり、15分過ぎにキーパーの好守をきっかけに速攻で5対5に追いつき、18分には逆転、その後1点を争う展開となったが前半は8対7と川口北がリードして終了。

　後半に入っても両チーム共よく足を使い速いペースで試合は展開点の取り合いとなった。川口北1点リードのまま勝負は終盤まで持ち込まれた残り5分、岩国工7番の速攻により同点に追いついたが川口北もペナルティでまたもや1点リードした。

　終始、落ち着いたプレーを見せた川口北がリードを保って逃げ切った。

久留米工大附 30（16―5／14―3）8 和歌山商（和歌山）

○…オフェンス力、ディフェンス力に勝る久留米工大附の強さを印象づける試合であった。和歌山商は、久留米の早いチェックにあい、前半開始8分間無得点。その間に久留米はポスト、カットインなどで5点をあげていった。ようやくカットインで和歌山も初得点をあげたがムードに乗り切れず、前半で16対5と大差がついた。後半になっても和歌山は調子に乗れず18分間無得点。その間に久留米は着々と得点を重ね一方的な試合となった。和歌山商にとって措しまれるのは、パスミスやオーバーステップなどをして自滅していったことである。

日体荏原 34（19―9／15―11）20 氷見（東京）

○…立ち上がり両チーム共一進一退の攻防が続いたが、10分過ぎ氷見の細かな動きに対して0―6のディフェンスをひきロングシュートを打たせる戦法に出た日体荏原は、GK大原の好守と両サイドプレーヤーのタイミングの良い飛び出しから4つのワンマン速攻が連続して決まり主導権を握った。後半に入っても、日体荏原はロングシュート、滞空時間の長いタイミングをずらしたシュートにスカイプレーをおり混ぜながらの多彩な攻撃を見せ、余裕のある試合展開となった。

桃山学院 19（10―8／9―3）11 富岡

○…立ち上がり富岡は相手ミスを生かし速攻を決め4点を先取したが、10分過ぎ桃山は4番の鋭いカットインで得点をあげた後フリースローなどでじりじりと追い上げ、20分過ぎには逆に相手ミスを速攻につなぎ逆転した。後半もリズムに乗った桃山が得点を重ねリードを広げた。

桜台 27（13―4／14―9）13 松江工（愛知）

○…まずゲームの主導権を握ったのは桜台。相手ペナルティをキーパー長船が好守してからペースをつかみ、エース平松を軸に4点連取する。一方、フェイント、カットインを主に展開する松江工は10分、11分と得点をあげて応戦。しかし、スピードに上回る桜台はその後速攻、ポストプレー、サイドへのスライドプレーと多彩な攻撃を見せ、一方的にゲームを進めた。

　後半に入ってやや単調になった桜台に対して、松江工は粘り強くパスをつないで2分松本のポストシュート、3分には金崎の速攻と反撃に転じた。この松江工の追い

上げムードに水を差したのは、桜台キャプテンの平松。左サイドから回り込んでの力強いジャンプシュートを決め桜台セブンにカンフル剤を与えた。目のさめた桜台は本来のスピードを取り戻し、山下、塩坂の1年生コンビの活躍や三輪の切れの良いロングシュートなど確実に得点を重ね、27対13と決め手に欠いた松江工を一蹴した。

▽準々決勝

浦添 21（9－11、10－8、1－0、1－0）19 尼崎小田

得	【浦添】		【尼崎】	得
0	奥間	GK	山下	0
0	新城	GK	小寺	0
5	津波古	FP	岩田	0
3	西原	FP	市村	5
1	島袋	FP	吉田	1
4	松田好	FP	北島	4
7	松田甚	FP	阪本	1
1	新城	FP	篠原	6
0	宮城	FP	高木	2
0	粟国	FP	白檀	0
0	由浅	FP	秀岡	0
0	名護	FP	二川	0
21	(0)	PT	(2)	19

（審・浅田 永田）

○…前半、まず浦添が速攻を決めリズムに乗るかと思われたが、尼崎も5番を中心にディフェンスの甘い浦添のポストにパスを通しシーソーゲームとなる。後半に入ると浦添が動きが良くなって立ち上がり一気に逆転、そのまま逃げ切るかに見えたが尼崎もよく粘り残り10秒、好守したGK山下からのパスを北島が決めて延長戦となった。延長2分過ぎ、浦添の津波古が速攻を決めリード、尼崎もすぐにフォーメーションを決めたかに見えたが浦添GKの好守に阻まれ得点出来ず遂に追いつくことが出来なかった。

川口北 18（10－8、8－7）15 小松

得	【小松】		【川口北】	得
0	山崎	GK	渡辺	0
0	林	GK	三原	0
0	平野	FP	岩崎	0
6	矢地	FP	西宮	0
1	加藤	FP	高須	0
4	寺下	FP	戸田	1
3	永井	FP	増田	3
0	酢谷	FP	萩原	5
1	堀江	FP	永島	3
0	村中	FP	原田	1
		FP	吉岡	5
		FP	塚田	0
15	(1)	PT	(5)	18

（審・大橋 若田）

○…序盤、川口北は小松のしつこいディフェンスにとまどい、持ち味のスピードを生かしたパスプレーが出来ず苦戦を強いられる。小松も上からの攻撃がないため、川口北はディフェンスラインを下げて相手のゆさぶりに対抗する。まず先取点をあげたのは小松、チェックの速いディフェンスから3番矢地がパスカットし速攻を決める。対する川口もサイドから萩原が得点しゲームは一進一退となった。前半も終盤を迎え、ようやく相手ディフェンスに慣れて来た川口北はポスト攻撃を決め2点差で前半を終了。

後半に入っても前半のペースがつづき、川口北は2分にペナルティ、4分にサイドからのループシュートで差を4点としペースを完全につかんだかに思えたが、小松は持ち前の粘りを見せる。きわどいパスをつないで5分、6分とたてつづけにポストシュートを決め13分には永井がキーパーのブラインドをつくステップシュートを決めるなど5点を連取、遂に逆転に成功した。この粘りにややあわてた川口北ではあったが、12分、1年生の増田がジャンプシュートを決めて同点とし、14分には速攻から相手の反則を誘ってペナルティを得て再逆転した。その後は落ち着きを取り戻し、キーパー三原の好守もあって余裕あるゲーム運びで小松を振り切った。

久留米工大附 16（7－5、9－6）11 日体荏原

得	【日体】		【久留米】	得
0	花本	GK	秋吉	0
0	大原	GK	坂本	0
5	林	FP	片山	3
3	根本	FP	甲斐	3
1	吉田	FP	久保山	0
0	横堀	FP	中西	0
0	真野	FP	野中	3
0	明石	FP	永松	1
2	西川	FP	村田	3
0	渡辺	FP	樋口	0
0	長原	FP	坂田	3
0	福田	FP	森下	0
11	(1)	PT	(3)	16

（審・斉藤 千野）

○…スピードの久工大附に対しパワーの日体荏原と大会屈指の好カードとなったこの一戦、前半久工大附がロング、速攻とたてつづけに5点を連取、調子良くスタートを切った。その間日体荏原は、明石にボールを集めるがロングシュートを久工大附のGKに阻まれ無得点。15分過ぎになってようやく明石、林のシュートが決まり始め5－7と追い上げて前半終了。後半開始5分両者無得点。日体の速攻が決まって同点となった後はシーソーゲームを展開。その均衡を破ったのは、久工大附のサイド攻撃とキーパーの好守。日体のノーマークシュートをことごとくつぶしてしまった。そして久工大附がリードを保ったまま試合終了となる。

桃山学院 21（9－8、12－8）16 桜台

得	【桜台】		【桃山】	得
0	長船	GK	政田	0
0	野坂	GK	安達	0
0	津兼	FP	杣山	5
7	平松	FP	井内	5
2	加藤	FP	大原	4
0	黒田	FP	納	4
4	三輪	FP	埜田	2
0	山下	FP	野田	1
2	塩沢	FP	戸田	0
1	舘本	FP	浜野	0
0	山田	FP	中林	0
0	澤田	FP	福田	0
16	(2)	PT	(5)	21

（審・三枝 佐分）

○…前半、桃山の強引な突っ込みに桜台のディフェンスが後手に回り、ペナルティ2本を取り先行したが、桜台もロング、ミドルなどで対抗した。両チーム共速いパスワークでディフェンスを崩し一進一退の好ゲームを展開し桃山の1点リードで終った。後半立ち上

がり桜台が半速攻で2点先取し逆転したが、ここから桃山はサイドシュートなどでディフェンスを広げる攻撃に変えてからリズムに乗り着実に加点したが、桜台も残り8分ぐらいから追い上げたが後半開始3分過ぎからの約15分間ノーゴールが惜しまれる。

▽準決勝

川口北 18（7－12、11－5）17 浦添

得	【川口北】		【浦添】	得
0	渡辺	GK	奥間	0
0	三原	GK	新城	0
0	岩崎	FP	津波古	5
0	西宮	FP	西原	5
0	高須	FP	島袋	3
5	戸田	FP	松田好	1
3	増田	FP	松田甚	3
2	萩原	FP	新城	0
2	永島	FP	宮城	0
1	原田	FP	粟国	0
5	吉岡	FP	田浅	0
0	塚田	FP	名護	0
18	(0)	PT	(0)	17

（審・島崎・井上）

○…前半立ち上がり、浦添がGKの好守からの速攻で3点を連取した。川口北は浦添の速いディフェンスの詰めに攻撃のリズムがつかめず、シュートミスから相手の速攻を許した。10分、川口北は徐々にペースをつかみ点差をつめ2点差まで追いつめたが、浦添の3番、6番にタイミングの良いシュートを決められ、12対7と浦添リードで前半を終了した。後半に入って川口北は連続でペナルティを得点し、逆速攻もよく決まり10分1点差に追いついた。浦添はシュートの確実性に欠け追われる苦しい立場に立たされた。15分川口北は速攻で同点、スカイプレーで逆転に成功、そのまま1点差で川口北が逃げ切った。

久留米工大附 20（10－7、10－6）13 桃山学院

得	【久留米】		【桃山】	得
0	秋吉	GK	政田	0
0	坂本	GK	安達	0
2	片山	FP	杣山	4
4	甲斐	FP	井内	3
0	久保山	FP	大原	2
5	中西	FP	納	3
0	野中	FP	埜田	0
3	永松	FP	野田	1
0	村田	FP	戸田	0
0	樋口	FP	浜野	0
6	坂田	FP	中林	0
0	森下	FP	福田	0
20	(5)	PT	(2)	13

（審・久保田・杉本）

○…エンジンのかかりが早かったのは桃山の方で5分過ぎには3対0とリードしたが、その後久留米の長身GKの好守とディフェンスの早いつぶしにあい、9分から23分までの14分間無得点という苦しい試合運びとなった。一方久工大附は、相手が退場者を出している間にペナルティを3本連続して決め着実に加点していった。前半終了間際に桃山も反撃したが、前半は10対7と久工大附の優位で終了した。後半に入り、10分過ぎまでは両チーム互角の展開となるが桃山は前半と同様に退場者が相つぎ、この頃から攻防のリズムが狂い始めてしまった。対する久工大附は、小兵ながら強い手首を生かしたシュートを放つ5番中西の続けざまにシュートを決める活躍で15分過ぎには一気に点差を9点とし、桃山の最後の抵抗をかわし逃げ切った。

▽決勝

久留米工大附 20（7－8、13－4）12 川口北

○…立ち上がり決勝の為の緊張からか攻めの動きがいつもと違う久留米に対し速攻、サイド攻撃を持ち前としその力を確実に出している川口北であった。川口北は相手に得点された攻撃パターンをすぐ次の攻めに利用して加点し、相手に何かぶきみな感を与えた様である。前半は8対7で川口北リードで終了。

後半、川口北は追いつかれながらなかなかリードを許さなかったが元気の出てきた久留米は川口北の9番退場のペナルティで初めてのリード、さらに加点、15分過ぎには8点差まで水をあけた。ここまでいくと久留米ペース、川口北はポストからサイドへのパスが通らなくなり、相手キーパーの好守もあってミスが目立ち始めた。しかし、最後まで試合を捨てず、やはり過去3戦からも見られる様に粘りある好チームであった。

結果、20対12の大差で久留米工大附属高校が〝覇業唯一〟●言葉通り昭和57年度の選抜を制した。

得	【川口北】		【久留米】	得
0	渡辺	GK	秋吉	0
0	三原	GK	坂本	0
0	岩崎	FP	片山	5
0	西宮	FP	甲斐	3
0	高須	FP	久保山	0
3	戸田	FP	中西	2
3	増田	FP	野中	1
4	萩原	FP	永松	5
2	永島	FP	村田	1
0	原田	FP	樋口	0
0	吉田	FP	坂田	3
0	塚田	FP	森下	0
12	(1)	PT	(3)	20

（審・斉藤・千野）

女子

▽1回戦

今治北商（愛媛）11（4－7、7－1）8 緑が丘（福島）

○…前半、低い姿勢からの鋭いつめに攻めあえぐ今治西に対し、確実なディフェンスからハーフ速攻を中心とした攻撃で着実に得点し緑が丘7対1とリードした。このあたりから次第に今治西も緑が丘のセット攻撃にも慣れ本来の持ち味である速攻が出るようになった。そのきっかけとなったのが今治北6番のタイミングのよいステップシュートが左コーナーに決まるとプレーヤーの意気も上がり流れは今治北に傾き後半終了寸前速攻で2点をたて続けに得点する。

後半になっても流れは今治北が堅持し、緑が丘はあせりからシュートに結びつけるパス、キャッチミス、単調で強引なロングシュートが続き、後半10分には同点、15分には女子とは思えないようなスピードあふれるカットインから相手の反則をさそいペナルティとなりついに逆転した。その後は一進一退の攻防のすえ今治北11対8で勝利をおさめた。

東宇治商（京都）13（4－5、6－5、0－2、1－1）13 神埼農（佐賀）

○…前半、両チームともボールが手につかず単調なゲーム展開となったが、ポストプレーを多用した東宇治が1点リードで終ったが神埼農7番のカットインからのミドルが光った。後半、両チームともポスト、サイド、ミドルと攻め合って着実に加点をしたが、スピードに勝る神埼農が追いつきリードしたが東宇治も頑張り抜きつ抜かれつの展開となり延長となった。延長に入ってから神埼農のミスが目立ち、東宇治がそれをうまく速攻に結びつけて前半をリードした。後半に入り神埼農のペナルティの失敗が重なり、結局これがたたって東宇治に軍配が上がった。

静岡城北（静岡）11（5－4、4－5、0－0、2－2、PTC 3－2）11 仁愛女（福井）

○…仁愛のスローオフで始まった。仁愛スピーディーに攻めるが最後のつめがあまくなかなか得点できない。ようやく4分に仁愛がポストで初得点するとすぐさま城北もポストで得点。その後仁愛が点を入れるとすぐさま城北も入れるという形で3対3となる。その後仁愛のスピードの方が城北より上であるが、城北の警告、ペナルティぎりぎりの反則にはばまれ得点につながらない。それに乗じて城北が2点連取5対3と2点差とする。それに対して終了まぎわにフリースローより仁愛も1点入れ前半は5対4で終了する。

後半開始早々、フリースローから城北得点し2点差とする。対する仁愛も2分30秒にポストで1点、5分にはラッキーなシュート（ディフェンスにあたってはいった）で同点。9分には城北の8番が2分間退場。その間にペナルティで逆転、もう1点追加し、逆に仁愛が2点差をつける。しかし、城北も8番がもどるやラッキーも手伝って続けざまに点を入れ再び逆転。そのままいきそうな終了直前に仁愛フリースローからエース11番が同点シュートを決めついに延長となる。

延長前半は、どちらも今一つの決めに欠けて得点にならなかったが、延長後半早々に、仁愛がペナルティにより得点。城北もまけずに後半2分ペナルティにより同点、残り1分城北ペナルティによりふたたび逆転。こんどこそこのままいくと思われたが、またもやエース11番が終了直前のフリースローで同点とした。試合規定によりペナルティコンテストとなる。まず3名ずつの代表戦では2対2、ついにサドンデスとなる。代表は城北7番、仁愛11番。城北7番のシュートは簡単に決まったが、不運にも仁愛のシュートはゴールをゆるがすことができなかった。この長い試合は、この1投により終ったのである。

栃木女（栃木）10（5－5、5－3）8 粉河（和歌山）

○…前半7分粉河は、辻本の左サイドシュートが決まり2対1とリードした。一方栃木女は、立ち上がり2分相川の中央からのロングシュートを決めたものの、2本のペナルティスローをはずし、やや あせりを感じさせたが、11分キャプテン佐山の巧みなボール回しから中村が右45度から回り込んでやっと2対2の同点とした。その後、1点を争う好ゲームとなり前半を5対5で終了した。後半立ち上がりに栃木女は連続2点取りこの試合の主導権を取った。一方粉河はスタンドの一年生部員の応援に応え岡山が11分中央からロングシュート、14分には速攻を決め1点差までせまった。しかし栃木女は、おちついたゲーム運びと相川の確実なシュートで粉河に2点差をつけ逃げ切った。

彦根西（滋賀）15（10－3、5－8）11 昭和学院（千葉）

○…彦根西、昭和学院ともに速いパス回しからのカットインプレーで得点するといったタイプの同じチームの対戦となった。開始直後、昭和学院が彦根のエース久保田にマンツーマンにつき3対1とリードした。しかし久保田がマンツーマンをふり切りロングシュート、カットインシュート、ペナルティシュートで着々と得点を上げ逆転し10対3で前半を終了した。後半昭和学院がねばりのある攻撃で得点を上げ、少しずつ得点差をつめたが前半の差は大きく彦根西が逃げ切った。

山陽女（広島）21（13－5、8－8）13 暁（三重）

○…前半試合はスローペースの展開で始った。山陽女は暁のミスをついてポストシュート、サイドシュートと先行した。暁はブラインドからステップシュートを狙うが山陽女のキーパー山口の好守により得点にならず。10分過ぎ暁は山陽女のシュートミスをきっかけにリズムをつかみロングシュート速攻と連続して得点を重ね8対6と逆転したが、その後も暁はリズムに乗ることが出来ず、又、山陽女も粘り8対8の同点で前半を終了した。後半、山陽女は2番を中心によく速攻が出て着々と得点を重ねリードを広げた。それに対し暁は、動きが悪くミスを連発し攻守にまとまりがなかった。山陽女のサイド攻撃、カットインに対し、暁はロングと対称的な対戦となったが、スピードに勝る山陽女が暁

を下し2回戦に駒を進めた。暁の今後の努力を期待する。

四天王寺（大阪）15（5―3、10―2）5 聖和学園 吉田（宮城）

○…前半立ち上がり、両チームともすばやい動きのゲーム展開となる。四天王寺は速攻と45度サイドからのステップシュートで加点する一方、聖和学園は3番（右）と5番（左）のロングシュートで応戦する。17分過ぎ四天王寺にリードを許していた聖和は相手の退場を足場に追い上げが見られるかと思われたが、5対3四天王寺リードのまま前半終了。後半、攻守ともせいさいに欠け凡ミスの目立つ聖和に対し、四天王寺は2番を中心に確実に得点を重ねる。ディフェンスにおいても気をゆるめることなく追加点を許さない。聖和はロングシュート中心の攻めが相手の速い詰めでことごとく阻止され、攻め手を失ったのが敗因につながってしまった。

校成学園（東京）15（7―4、8―6）10 読谷（沖縄）

○…試合開始後やや硬さのみられる両チームだがまず先鞭をつけたのは校成女。3分、ポストのカットインがきれいに決まり相手の反則を誘いペナルティ、これを3番久保が確実にゴールする。その後5分11番、7分7番がカットインプレーを、8分には4番がロングシュートを決めるなど持ち味を十分発揮し、5点連取する。一方読谷は、攻防とも歯車がどうもかみ合わない。しかし、10分を過ぎたあたりからようやく本来のきびきびとした動きが見え始め、6番のサイドシュートや、3番の力強いロングなどで応戦互角の内容となってきた。結局前半を終って7対4で校成が一歩リード。読谷の立ち上がりの硬さが得点差となった。試合の興味は後半読谷がどのようなゲーム運びをするかであったが、後半1分、4番が不正交代で退場、どうしてもリズムに乗り切れない。対して校成は、2番のステップシュート、3番の力感あふれるジャンプシュートで破壊力を見せつけジリジリと差を引き離していく。読谷は終盤校成の3番、12番の連続退場で有位に立ち、マンツーマンディフェンスをするなど食い下がったものの、時すでに遅く15対10で校成女が緒戦をものにした。

小松市女（石川）24（13―2、11―5）7 高松（香川）

○…高校ハンドボール界のクイーン小松市女を相手に高校がどう戦うかが見どころであるが、さすがに小松市女は1―5ディフェンスの守りは固く、攻めては速攻、ポスト、ロング、サイドと多彩な攻めを見せて今年再度王座を目ざす意気込みが感じられた。一方高松は、前半は小松市女に圧倒された感じであったが、後半は持ち味を生かしロング、ポストが決まったが、痛いところでイージーミスがでたのが悔やまれる。

▽2回戦

名古屋短大付（愛知）11（6―5、5―2）7 今治北

○…開始後3分、ローリングによる攻撃から今治北6番のステップシュートにより得点をあげる。その後、今治北2番のステップシュートが決まり名短付を攻める。大会2日目に初戦の名短付は、パスキャッチなどのミスや攻撃の展開がうまくいかず苦戦する。しかし前半17分から早いパスワークにより今治北のディフェンスをくずし、カットインにより得点をあげ前半1点差のリードで終了する。後半になると、名短付の動きが良くなり持ち味である速攻により3得点をあげる。今治北は、後半3分過ぎに6番の退場により攻撃のリズムをくずし得点をすることができない。名短付はミスが多く満足する試合内容ではなかったようである。今治北は最後まであきらめず、選手の健闘をたたえたい。

吉井（群馬）17（10―2、7―5）7 東宇治

○…前半2分過ぎに吉井の4番、5番が相手シュートミスよりの速攻にて連取し先制点を得る。その後も吉井のペースにて試合展開がなされ、速攻を中心に7番のポストシュート、4番、5番のサイドシュート、3番のロングシュート、2番のフェイントからのカットイン等速いパス回しにて相手ディフェンスを破り着々と加点していく。一方東宇治は、吉井の固い守りを攻めきれず苦しいところからシュートを打つがゴールに結びつかず逆に相手の速攻を許してしまう。8分に相手がボールカットのミスを7番がサイドよりとび込み初得点する。又、9分に2番がロングシュートを決めるが追いつくまでいかず、前半は一方的に吉井のリードにて10対2で終了。

後半に入っても、吉井は守りが固く東宇治は攻めきれず、2番のロングやフェイントからのカットイン、6番のサイドより回り込みジャンプシュートなどで加点するも、前半のリードを取りもどすまではいかず終始吉井のペースにて進む。7分～15分には相手ディフェンスよりペナルティをさそい、6番が3本のペナルティスローを確実に決め吉井が勝利をおさめた

静北城北 10（2―6／7―3／1―0／0―1／PTC 2―1）10 三好（愛知）

○…昨日仁愛女との試合でPTCまでもつれ込み勝ちを得た静岡城北と地元三好との一戦。三好は3番左腕の連続得点でさいさきの良いスタートを切ったのに対し、細かいパスのつなぎでボールを回し2番のロングシューターに集めるが、三好のキーパーの好守にはばまれ得点ができず苦しむ城北であった。後半、城北は3番に対しマンツーマンディフェンス。ボールが回らなくなってしまった三好にあせりが見られた。城北は3点連取し1点差につめより追いすがる。三好もフリースローから得点を重ねるが、残り2分、2番のロングシュートで遂に同点延長戦にもつれ込む。延長開始1分、城北はサイドからのシュートでこの試合初のリードをうばう。その後、双方ともあせりが見られなかなか得点に結びつかない。後半残り2分で三好はペナルティから再度同点になったところでタイムアップ。城北は昨日に続きPTCとなった。結果はPTCで静岡城北が勝利をおさめ昨日の試合を再現しているかの様であった。三好は3番のマンツーに対し、あと5人が攻め手を失ってしまったのが敗因につながってしまった。

岩国商（山口）9（4―4／5―4）8 栃木女

○…濃紺に黄色のあざやかなユニフォームの岩国と明るいスカイブルーのユニフォームの栃木女の対戦は、やや緊張して動きのぎこちない岩国のディフェンスのスキをついて、栃木女の5番、7番が連続してポストからシュートを決め栃木ペースの展開になるかと思われたが、前半5分に、岩国3番が相手の甘いパスを思い切り良くインターセプトしそのままゴールへ向かって一直線に走り強烈なシュートを決めると、岩国セブンの固さが一気にほぐれ、7分、11分と積極的なディフェンスから速攻を出し、13分にはペナルティスローも決め4対2と岩国がリードする。中盤小柄ながらよく動く岩国ディフェンスに手こずった栃木女も前半終了間際に反撃し4対4の同点で前半を終了する。

岩国のスローオフで始まった後半は、岩国が7番のサイドシュートでリードすれば、栃木女も4番の塩谷の速攻で応じ追いつ追われつの展開になる。しかし、後半の中盤過ぎから栃木女に退場者が相つぎ、後半15分過ぎに岩国がサイドシュート、ペナルティスローと2点連取し勝負を決めた。岩国は大事なところでパスミスや反則が出て苦しい展開の試合にしてしまった。一方の栃木女も警告、退場者が多く出たために今一歩のところで涙を飲まなくてはならなかった。両チームとも今後より一層精進して正確でクリーンなハンドボールを身につけるよう頑張って欲しい。

彦根西 13（9―2／4―7）9 函館女商（北海道）

○…立ち上がり、彦根西は2番を中心に鋭いカットインとフェイントからポストへのパスが決まり4点先取する。函館も6分PTで1点返すが持ち前の長身選手のロングシュートが決まらず苦しむ。彦根3番、2番退場の間にも函館加点できず前半彦根7点リードで終る。後半彦根2番退場の間に函館2点連取し、その後もロングシュート、ボールカットからの速攻で追いすがるが、彦根もポストプレーなどで加点し前半のリードに守られて逃げ切った。

山陽女 15（8―1／7―5）6 国分実（鹿児島）

○…立ち上がり両チームともミスをくり返したが、山陽女の早いディフェンスのつめにより攻めあぐみミスを重ね、これをうまく生かし速攻やカットインなどの攻めで着々と加点をし8対1と山陽女リードで終った。後半国分実がクロスからのロングで反撃し一時4点差まで追い上げたが、国分実のパス回しを山陽女がパスカットからの速攻で着実に加点をし逃げ切った。

市邨学園（愛知）18（6―7／7―6／2―1／3―3）17 小松市女

○…前年度優勝の市邨と古豪小松市女との対戦で館内は熱気にあふれていた。開始早々市邨は、小松のミスから速攻で先制したが、小松は45度とポストとのコンビネーションから連続得点をし必死に追撃した。前半15分過ぎ、両チームともディフェンスの甘い所をつかれペナルティからの得点が続いた。前半終了間際に小松の左右両サイドシュートが決まり7対6と1点リードしたが、ゲームは緊迫したムードであった。両チームともよく鍛え上げられており、実力差は殆どなく、後半ミスを繰り返したチームが涙をのむであろうと予想された。

後半立ち上がり市邨は、3番のスカイが決まり同点とし、続いて2番の回り込みで逆転に成功し、ゲームは一進一退の好ゲームとなった。後半終了寸前小松は、2人の退場者を出し、市邨が決勝点をあげるかに見えたが、辛くもピンチを脱し試合は延長戦にもつれ込んだ。

延長開始2分市邨は、4番のカットインからのシュートが決まり、チームの動きが全体的に良くなり、ポストとのコンビプレーで加点することが出来た。最後まで小松のスピードは衰えず、サイド、ポストからの多彩な攻撃で追撃したがわずかに及ばなかった。いずれにしても女子2回戦屈指の好カードにふさわしいゲームだった。

▽準々決勝

名古屋短大付 9（5―6／4―2）8 吉井

【名短付】	得		【吉井】	得
小　富	0	GK	大河原	0
石　川	0	GK	遠　藤	0
渡　辺	0	FP	江　原	2
稲　垣	3	FP	島　崎	0
高　瀬	4	FP	野　口	3
長谷川	1	FP	井　上	2
成　田	0	FP	春　山	0
御厩敷	0	FP	石　井	1
筒　井	0	FP	田　中	0
城	0	FP	横　尾	0
奥　村	1	FP	小　林	0
高　橋	0	FP	武　田	0
	9 (3)	PT		8 (1)

（審・旅中山）

○…165センチ2番、170センチ3

番の長身の選手を中心にセットオフェンスからロングで攻撃する吉井と早いパスワークからカットインプレーを中心に攻撃する名短付の対戦となる。試合開始、動きの良い吉井は2番のロングシュート、4番のサイドシュート、速攻など多彩な攻撃で得点をあげる。名短付は、カットインプレーで強引に前へ進み吉井の反則によってペナルティスローで得点を重ねる。前半一進一退の攻防により6対5吉井のリードで終了する。後半になり名短付5番のロングシュート、吉井のパスミスから10番の速攻によりこの試合初めてリードする。その後、両チームとも堅い守りにより得点を重ねることができず9対8名短付の1点リードで終了する。吉井の2番の動きが特に良くロングシュート、フェイントなど切れ味があり光った。

岩国商 13 (6－2 7－7) 9 静岡城北

○…岩国商は前半立ち上がり、速攻から5番のポストシュートを皮切りに3番、4番が加点し早くも3点差をつけリズムをつかんだ。一方、静岡城北はキャプテン大村のするどいフェイントを中心に相手ディフェンスをゆさぶるが、岩国の堅いディフェンスを破ることができない。5分過ぎ、2番がセットからサイドへ回り込み

得	【城北】		【岩国】	得
0	森	GK	宇佐川	0
0	尾焼津	GK	松井	0
3	加藤	FP	伊藤	2
2	望月	FP	横田	4
1	中川	FP	西村	2
0	伊藤	FP	東	2
0	酒井	FP	角	2
2	大村	FP	谷	1
0	増田	FP	作本	0
1	青島	FP	森本	0
0	山下	FP	島岡	0
0	大金	FP	宮部	0
9	(1)	PT	(2)	13

（審・岩本・坂倉）

1点。7分過ぎにも2番がロングシュートを決め2点差とした。やっと硬さがとれディフェンス、パス回しも本来の力がではじめ追加点を許さず、攻撃面においても相手チームの退場を誘う、するどい切り込みもでてきた。岩国は16分過ぎセットから2番がロングシュート、7番が回り込みシュートを決め前半6対2とリードした。

後半岩国は開始1分、2番がセットからロングシュートを決め、3分には5番がポストからとび込みペナルティを誘い、それを6番が決め静岡城北に6点差をつけ試合を優位に進めた。中盤から静岡城北も9番のワンマン速攻、7番のペナルティ、2番の相手速攻のパスカットから逆速攻、9分には7番がストーリングからこれまた7番が速攻で決め、岩国の小さなミスをつき、リズムをつかみ追い上げムードに乗った。しかし、前半の差が重くのしかかり追いつくことは出来なかった。

山陽女 13 (6－5 7－5) 10 彦根西

得	【山陽女】		【彦根西】	得
0	山口	GK	田島	0
0	笑迫	GK	河地	0
7	中嶋	FP	久保田	5
0	佐々木	FP	谷口	2
0	石田	FP	浜野	0
2	山崎	FP	奥山	3
2	池田	FP	小幡	0
2	沖田	FP	吉田	0
0	大林	FP	広瀬	0
0	相川	FP	西河	0
0	本西	FP	小椋	0
0	川本	FP	川口	0
13	(5)	PT	(0)	10

（審・川島・森）

○…前半、山陽女が速攻で先手をとり、彦根西はローリングからのカットイン、2番のロングシュートなどで追う展開となり6—5山陽女リードで終る。後半立ち上がり、彦根は5番のカットインで同点にするが、山陽女得意の速い攻めからPTを含め3点連取しリードを広げる。その後、彦根西も2番のステップシュートなどで点差を縮めるが、速攻のノーマークシュートが決まらず同点のチャンスを逸す。山陽女は堅いディフェンスからボールカットの速攻を決め、追いすがる彦根西を振り切った。両チームとも最後までよく走り持ち味を十分に出していた。

市邨学園 12 (4－6 8－5) 11 校成学園

○…前日に小松市女と延長にわたる死闘を繰り広げた市邨は疲労からか各選手とも動きに今ひとつ

得	【校成】		【市邨】	得
0	平野	GK	酒巻	0
0	梅沢	GK	桑原	0
0	杉田	FP	押水	4
4	久保	FP	堀田	4
0	松尾	FP	木村	1
1	石谷	FP	安東	2
0	市野	FP	坂倉	1
0	渡辺	FP	西尾	0
3	長良	FP	景山	0
2	大場	FP	桜井	0
0	網野	FP	小島	0
1	北島	FP	梶田	0
11	(1)	PT	(1)	12

（審・村井・伊藤）

精彩がなく、シュートチャンスは作るものの得点をなかなかあげられない。一方、校成は市邨の甘いシュートを速攻に結びつけたり、3番の小気味よいジャンプシュートで得点し、前半を6対4と校成の2点リードで終る。後半に入って、地元大応援団の声援に支えられた市邨は、開始早々2点連取し同点に追いつくが、校成もその後3点連取し9対6とまた突き放す。しかしながら後半10分過ぎから、GKのファインプレーをきっかけにペースをつかみだした市邨は、猛烈に追い上げ残り時間1分に同点に追いつき、さらに終了10秒前に市邨2番が体勢を崩しながらも執念のシュートを決め劇的な逆転勝利をおさめた。終始リードを保っていた校成であったが、1点の重さ、勝負の厳しさの前に涙をのんだ。

▽準決勝

名古屋短大付 16 (9－7 7－6) 13 岩国商

得	【名短】		【岩国】	得
0	小畠	GK	宇佐川	0
0	石川	GK	松井	0
2	渡辺	FP	伊藤	0
2	稲垣	FP	横田	3
2	高瀬	FP	西村	2
6	長谷川	FP	東	0
0	成田	FP	角	6
0	御厩敷	FP	谷	2
0	筒井	FP	作本	0
3	城	FP	森本	0
1	奥村	FP	島岡	0
0	高橋	FP	宮部	0
16	(1)	PT	(6)	13

（審・前川、秋永）

○…名短付は試合開始後5分間動きが良く5番のロングシュートが3本決まり岩国をつき離す。その後相手ミスをつき、速攻を確実に決め着々と得点を重ねる。しかし、岩国は名短付のディフェンスの甘さをつき、ロングシュートはないもののポストを巧みに使い名短付に追いすがる。前半9対7で名短付がリードして終了する。後半になると、岩国のディフェンスが前に出ず、名短付3番、5番のロングシュートが決まる。

岩国はロングシュートがないため、攻撃パターンを名短付によまれうまく攻撃することができなくなった。結局、岩国商は名短付にリードすることなく試合終了となった。しかし岩国の粘りある攻撃はほめたたえたい。

山陽女 20（10－5、10－5）10 市邨学園

○…前半立ち上がり、ミスの目立つ市邨のすきをつき山陽女が先行、試合の主導権を握った。山陽女はスピードに乗った攻撃で着々とリードをひろげ10分には7対2とした。それに対し市邨は、疲れが目立ち動きが鈍く攻守に精彩がなく場内の大歓声に応えることができなかった。14分過ぎ、市邨もキャプテンキーパー酒巻のファインプレーをきっかけとして反撃に移るかに見えたが、山陽女4番の力強いプレーにより終始リードを保ち前半を終了した。

後半に入っても、市邨は元気なく山陽女の厚い壁にシュートを拒まれ持ち味の攻撃を生かすことができなかった。それとは反対に山陽女は、よく声が出て足を使ったスピーディーな攻撃を展開、攻守に安定した力を発揮し市邨を圧倒した。結局、スピード、体力に勝る山陽女が予想に反した大差で勝利をものにした。尚、市邨のキーパー酒巻の再三にわたる好守が光った。

得	【山陽】		【市邨】	得
0	山口	GK	酒巻	0
0	笑迫	GK	桑原	0
3	中嶋	FP	押水	0
0	佐々木	FP	堀田	5
7	石田	FP	木村	3
3	山崎	FP	安東	2
3	池田	FP	坂倉	0
1	沖田	FP	西尾	0
1	大林	FP	景山	0
2	相川	FP	桜井	0
0	本西	FP	小島	0
0	川本	FP	梶田	0
20	(1)	PT	(0)	10

（審・中根、秋山）

▽決勝

山陽女 16（10－4、6－6）10 名古屋短大付

○…女子決勝は、ここまで苦戦しながらも地元の期待に応え勝ち進んできた愛知の名短付と、前評判通りの力を発揮し順当に勝ち進んできた広島の山陽女の対戦となった。

山陽女のスローオフで始まった前半は、2番のポストプレー、4番のロングシュートと多彩な攻撃を見せる山陽女が着実に得点をあげていくのに対し、名短付は、5番のロングシュートや速攻で攻撃をこころみるが、山陽女ディフェンスの早いチェックとGKの好守にあって思うように得点することができず、10対4と山陽女のリードで前半を終了。

後半に入ると、名短付も攻防のリズムを取り戻し、互角に渡り合う健闘を見せ、必死に追いすがるが、スピード、パワーともに勝る山陽女が前半のリードを守り切って念願の初優勝を成し遂げた。

得	【山陽】		【名短】	得
0	山口	GK	小畠	0
0	笑迫	GK	石川	0
6	中嶋	FP	渡辺	1
0	佐々木	FP	稲垣	2
6	石田	FP	高瀬	2
3	山崎	FP	長谷川	5
1	池田	FP	成田	0
0	沖田	FP	御厩敷	0
0	大林	FP	筒井	0
0	相川	FP	城	0
0	本西	FP	奥村	0
0	川本	FP	高橋	0
16	(2)	PT	(2)	10

（審・佐分、三枝）

公認ハンドボールコーチ養成講習会について

普及委員会

　標題の講習会が2月8日～13日まで、オリンピック記念青少年総合センターにおいて開催されました。この講習会については、第1回が53年度第2回が55年度に開催されており、皆さん御存知のことと思います。以前、体協主催で一級、二級のトレーナーの養成をしていましたが、今はもうこの制度はなく、「公認スポーツ指導者制度」に移行しています。これは、日体協と競技連盟、あるいは地方体協と共同して制定されており、指導者の種類としては、「上級コーチ、コーチ、トレーナー、スポーツ指導員」があります。日本ハンドボール協会が、体協と共同して養成するものはハンドボール上級コーチとコーチがあります。養成する上での役割分担は、体協が共通教科を通信教育によって日本ハンドボール協会が専門教科を分担するわけです。共通・専門の両方の講習会を受講し合格して初めて公認の資格を有することができます。公認は両テストに合格した後、登録申請を終了しなければなりません。以前2回の講習会を修了・合格されている方の中には、登録申請をされていない方がおられ、情報の提供等のメリットを受けておられない方がおられます。心当りの方は、登録の有無を確認し、手続きをして下さいますようお願い申し上げます。

参加者

　参加者は、次の24名でした（中途で、親族の病状悪化のため帰られた方がおられます）。参加者は各都道府県のハンドボール協会あるいは、体育協会の推薦によって募集されます。今年度は3回目ということもあり、養成コースの存在意義が理解され、35名の受講者が集まりました。結局は24名で開催されましたが、多数の欠席者がでたことは、共通教科でひっかかったり（共通がパスしなくても、実際には専門も受講できる）急に都合のつかない事態が起ったためと思われます。（今回の研修会で残念に思われたことは、欠席者のほとんどが無断欠席であったことです）。

参加者氏名

No.	氏名	性別	年齢	所属都道府県	勤務先
1	赤松　徹	男	30	岡山	玉野スポーツセンター
3	飯田　信行	〃	37	東京	中村荷役運輸(株)
4	池田　和男	〃	34	神奈川	関東学院高校
5	石甲斐英三	〃	38	大分	別府鶴見丘高校
8	稲生　茂	〃		千葉	県立佐原高校
9	市瀬　公敬	〃	34	山梨	県立吉田商業高校
12	菅野　富夫	〃	36	東京	早稲田中高校
13	金城　幸信	〃	38	沖縄	県立首里高校
14	工藤　鉄男	〃	31	岩手	県立盛岡第4高校
15	小西　正寿	〃	26	栃木	足立工業高校
16	近藤　實	〃	36	鹿児島	自衛隊鹿屋
19	酒谷　信彦	〃	27	石川	北國銀行
20	塩見　博	〃	35	広島	自衛隊呉
21	鈴木孝八郎	〃	39	茨城	水海道第二高校
22	鈴木　章弘	〃	35	東京都	(株)創作屋
23	瀧浪　敦	〃	23	山形	
24	土屋　基	〃	35	千葉	順天堂大学
25	永井　邦佳	〃	31	群馬	(株)日本光電富岡
26	原田　義也	〃	27	山口	自衛隊
27	吹上　明	〃	32	広島	日新製鋼呉製鉄所
31	目野　博路	〃	34	埼玉	自衛隊体育学校
32	矢澤　達司	〃		茨城	竜ケ崎一高
33	山田　克彦	〃		埼玉	浦和実業学園高
35	井川　頼彦	〃	30	石川	県立小松商業高校

感想文

　次にあげるのは、受講者の感想文です。（受講者に機関誌掲載の許可を得ていないので、匿名にさせていただきます。）これらからもみられるように、この講習会は十分に意義深いものであったと思います。講師・受講者の熱意によって盛り上がったものであり、運営の担当者として喜びにたえません。この紙面を借りて感謝を申し上げる次第です。

Ⓐ

「井の中の蛙大海を知らず」という諺の通り、一地方での指導者として過して来た自分が恥ずかしい気分である。過去、全日本高校優勝、関東高校優勝数度とそれなりの成果は客観的に認められるところであろうが、指導者としての姿勢、理論、方法等に関しては前記の諺の通りである。

　今回の中央講習会は、まだ今後多くの難題をかかえていることであろうが、名コーチ、あるいは他種目の現役プレーヤーの講話、体験談を聞くに、心の奥から噴きあがるハンドボール指導への意欲、研究心、創造力の必要を感じさせられた。また、実技指導における各コーチの指導に自分の指導の確かさを感じたり、また、未知の技術に新たな意欲をかきたてられる。

　5泊6日の生活の中で、講習会内容については今後の指導に大いに役立てたいと多くを感じ、今後のハンドボール、特に世界における日本ハンドボールの動向を占う大きな示唆を感じた。そして、受講者各氏の情熱を今後とも生かして欲しいと同じに、育ってゆく、あるいは育ちつつある新たなハンドボーラーの情熱を決して消さないような日本ハンドボール協会であって欲しい。

Ⓑ

　今回の研修会に参加して、指導者としての物の見方、考え方に大きな変化が生じた。つまり科学的心理的などを含めて、客観的、創意工夫性などを持たなくてはならない。つまり、指導者は知識人でなくてはならないと感じました。

昭和57年度　コーチ養成講習会時間割

時限	時　間	第1日（2月8日）	第2日（2月9日）	第3日（2月10日）	第4日（2月11日）	第5日（2月12日）	第6日（2月13日）
1	8：30〜10：00		5　競技規則 6　審判法	9　西独の指導法	14　ハンドボールの傷害と処置および予防策	17　他競技のコーチ論 体操競技	テスト
2	10：20〜11：50	受付 10：00〜 開講式 10：40〜 1		10　他競技のコーチ論 バスケットボール		18　自由討議	テスト
3	13：00〜15：20	2　世界の技術と戦術	7　技術・戦術指導法	11 ハンドボールのトレーニング	15　技術・戦術指導法	19　個人戦術（実技）	閉講式
4	15：20〜16：50	3　ハンドボールの歴史 ①外国 ②日本		12　ハンドボール科学（走・跳・投）			
5	19：00〜20：30	4　研究討論	8　世界のハンドボール情勢	13　研究討論 公認ハンドボール指導者委員会について	16　他競技のコーチ論 サッカー	20　研究討論	

今回の公認コーチの研修会を受講して、とにかく勉強になりました。自分の視野が大きく開いた感じが致します。よって今回得た多くの知識を自分一人のものとせず埼玉県に持ちかえり、広くハンドボールを愛好する人々に分け与えなおかつ自分自身がそれを基にしてより創意工夫、発想の転換を考え、いつまでも自己との戦いを忘れず、一生ハンドボール人生を歩むことを確信する次第です。

知識人となる努力を忘れずに頑張ります。

©

今回この講習会に参加して、自分の思っていた事、考えていた事やろうとする事の一番いいタイミングで参加でき、期待通りの1週間だったし、ハンドボールの専門的内容でした。今後何をやるかというと有言実行論になりますが、自分のチームを強くすることはもちろんですが、自分の所属するハンドボール協会を一つのクラブ的存在にし、その方向に向けて走ろうとうイメージがわき夢を追いかけてみたいと思っています。

Ⓓ

講習会に参加してハンドボールに対する意欲がわき、来て良かったと思っております。早く帰ってチームメイトに伝達したい気持です。ハンドボール協会の支援有難とうございました。

Ⓔ

自分は、この講習会においてとにかく勉強するんだという気持で来たわけですが、その目的を達した以上に、いろいろな指導者の方々と話しをし、意見を聞き、知り合いになれ、これほど有意義なことはなかったと思います。そして皆さんがハンドボールに対して情熱をもって真剣に取り組み、ハンドボールの今後の発展を願っている姿に感動しました。これからも何らかの形で、全国のいろんなセクションでのハンドボールの指導者の方々を一同に集めていただきディスカッションすることがハンドボールの発展につながると考えます。

Ⓕ
コーチ制度によりこのような研修を履修出来たことは、ひとえに普及担当の大変な努力をされた諸先生方のたまものと思い、感謝にたえません。今後、私の指導する立場としての幅になるよう研究、指導するつもりです。有難とうございました。

Ⓖ
ハンドボールに限らずその道をきわめられた方は、競技の歴史に始まり専門的知識まで広い分野にわたる見識に改めて感心させられました。チームを日本一にしようと考えている私にとっては、とてもショッキングであり、激しいトレーニングを課している選手に対して申し分けないとも考えています。幸い今回の研修を通じまして奥深い指導者の道を入門させて頂いたと思います。専門的知識もさることながら、指導者として何を求めて進むかは、地元に帰ってゆっくり整理したいと考えております。どうかこういった研修会の輪がどんどん広がってゆく事を願っております。

Ⓗ
全国のハンドボールを愛する人々と知り会えたことが最大の収穫であったと思います。各々の立場で指導している人の生の声を聞けたということは、その中でのその指導者の苦しみや悩み、喜びや悲しみによって人間の生長過程を見せつけられた感じがする。人間は一つの目標をもって、その目標を達成するために努力している姿は非常に美しい姿であり、自分の姿を再度見直す良い機会であった。今後のハンドボールの指導の方向づけにとって本講習会は有意義であった。

Ⓘ
反省せねばならぬ事項が多過ぎて、またはずかしく、とてもこの紙面に載せることができないと思います。この1年間、公認コーチのコースで学び、またいろいろな方と接触できて非常に勉強になりました。今心に浮かぶという抱負は、まず、

○人作りである
○研究心を忘れない
○0になって指導の対象に接する
○己に勝つ

以上の様なことでありますが、各々の項目について常にじっくりと考えて行動していきたいものです。そして「ハンドボールはこんなにすばらしいんだ」と自信をもっていえることができるようになりたいものです。この講習会に学んだことをさっそく生徒に持ち帰り、"あせらず"やりたいと思います。

Ⓙ
今回の講習会で学んだ数多くの知識を土台に、日本人としてのハンドボールをより一層研究し、体系的、実践的なコーチ論を築き、周囲の刺激を受けながら、現場の一指導者として第一歩を踏み入れたいと思っています。講習会で深めた親睦を今後忘れることなく、同じハンドボーラー、同じ日本人同士として、お付き合いしたいと考えています。6日間、本当に勉強になりました。今後のこの講習会の発展を祈っております。

Ⓚ
今回の研修の機会を得、自分の考え方が一回り大きくなり、大変よかったと思います。いろんな研修があれば、是非どんどん参加したいと思います。

Ⓛ
毎日が何か流された日々を送り何となく忙しいようで、実際は暇なのかも知れません。何かこう、今自分が今後の人生をどのように生きていくのかを考えている状態です。私からハンドボールは切れないものと思います。しかし、今学校の中では教師として金をもらっています。部活動でもらっているのではないと思います。体育教師とし、授業および担任として給料をもらっていると考えます。部活動は、あくまでもボランティア活動と思います。そう自分では割

担当講師名

1
2 竹野　奉昭（強化部長兼全日本男子監督）
3 安藤　純光（（財）日本ハンドボール協会常務理事）
　水上　一（筑波大学）
4 大西　武三（（財）日本ハンドボール協会普及委員長）
5 6 斉藤　実（審判部）　光島　磯雄（国際審判員）
　北井　晴次（国際審判員）
7 金原　至（元氷見高校監督）
　井　薫（全日本女子監督・立石電機監督）
8 杉山　茂（NHK運動部）
9 樫塚　正一（武庫川女子大監督・56〜57体協・海外派遣指導者）
10 笠原　成元（元バスケット ボールナショナルチーム監督）
11 阿部徳之助（元強化部トレーニングドクター）
12 石井　喜八（日本体育大学）
13 大西　武三（（財）日本ハンドボール協会普及委員長）
14 井上　良太（小守スポーツ）
15 野田　清（強化部コーチ群兼大同特殊鋼監督）
　本田　洋（強化部コーチ群）
16 松本　育夫（日本サッカー協会）
17 塚脇　伸作（元体操競技ナショナルチームリーダー）
18
19 木野　実（強化群兼湧永製薬監督）
　李　寿　昶（大崎電気コーチ）

り切っているのですが、何かどちらも中途半端な状態となっているのが現状です。それを打破するというより何か刺激を求めて今回の講習を受けてみました。それなりに自分にとって勉強になりました。ハンドボールの指導法について、またあらたな情熱を得たように思えます。

Ⓜ

今回の成果をぼくのやっているチームにも県内のチームにもできるだけ広げたい。強いチームを作りたいのが最大の念願です。

今回の講習会参加の方々

Ⓝ

今回の講習会に参加するまではチームというのは指導者がとにかく熱心にやれば強くなると思っていました。そして、今までの経験が指導の根源でした。経験だけでの指導がカベに当たるとは聞いていましたが、そのような事は全く考えられませんでした。この講習会に参加して諸先生方の話を聞いているうちにコーチとしてのこれだけはというものが何だかわかってきたような気がします。形として具体的に出てきませんが、ここで習ったことをたとえハンドボール以外のどのスポーツを学校で見るようになっても役立てられると思います。そしてまた、自分のプレーの中に必ず役立てたいと思っています。特にコーチとしてどのように指導したらよいかということについて、ボーとかすんだ状態ですが県に帰って必ず役立てたいと思っています。

Ⓞ

今さら知識を詰めこんでどうなるものかと考えつつうかつに参加を申し込んだ自分を悔みながらの初日でした。しかし、一日、二日と経過するにつれて時間毎に替る講師陣の熱っぽさに気押され、参加された受講生の熱心さに引きこまれるような気がしました。多分にハンドボールに対する情熱を失いかけていた自分が恥ずかしい気がしました。この参加を機会に自分のウィークポイントを洗い直し再度出直す決心がついて帰宅できることが大変嬉しいことです。

Ⓟ

今回のコーチ養成コース受講において、豊かな経験を積まれた方々のお話しに接し、自分自身の今までの不勉強を反省し、色々と教えられた事を、自分なりに考えて指導を実施してゆきたい。

Ⓠ

今回の研修会を企画していただいたことを深く感謝しております。全体的に極めて得るところが多く新たなインパクトを与えていただいたと思っています。特に李先生、木野先生、野田先生、本田先生の実技指導、また杉山先生、笠原先生のお話しは印象的でありました。今後、今回のような実技指導特に、李先生にやっていただいたような基本的な実技から更に戦術面での実技指導をしていただけたら大変有難たいと思っております。

Ⓡ

積極的に勉強していくと、自分が現在まで描いていたハンドボール観が少しずつでも確立され、理論づけされていくことが非常に面白く、またまた深入りしそうである。人間的幅の増大と運動学的理論づけが今後共このような機会をとらえて厚みのあるものとしたい。また、全国各地の指導者とコミュニケーションできた事は、自分の人間的幅を広げる意味でも大きく影響している。

Ⓢ

参加者の皆さんとハンドボールを通して話しができたことがとても良かった。また、内容については、実際の実戦的なことに(実技)ついてもう少しやった方が良いと思われる。

事務局からのお知らせ

昭和58年度（4月から59年3月）の登録の時期になりました。各県ハンドボール協会へ御申し出の上、早目に登録をすませて下さるようお願い申し上げます。

尚、機関誌「ハンドボール」を御購読下さるようお願い申し上げます。発行は、7月号から59年6月号までで1月休刊の年11回発行です。

定価三五〇円、年間三三〇〇円です。

昭和57年度（財）日本ハンドボール協会強化部総会議事録（抄）

昭和58年1月30日（日）

○竹野部長から今年度に入って佐藤、中井、紀野、谷口俊郎の各コーチが新任した旨紹介があり、さらに樫塚コーチが1年間の西ドイツ研修を終えて無事帰国したことを報告、拍手が送られた。

◇報告事項

▽第9回アジア競技大会について

竹野部長（アジア大会代表チーム監督）から次のように報告された。

肝心なところで負け、責任を感じている。しかし、内容的には〝完敗〟ではなく、次の機会には十分雪辱を果たし得る。JOCなどからの期待も高く、それがやはりプレッシャーにもなってしまった。技術、戦術的には勝負どころで決定打を欠いたのが痛い。せり合いのヤマ場で踏んばる精神力に物足りなさもあった。韓国戦（準決勝）では、つねに1～2点差、中国戦（決勝）は一度もリードを奪えていない。クウェートなどアラブ諸国は東欧圏からコーチを招き強化しており、4年後のソウル大会はさらに激戦となろう。

戦略、戦法面では、韓国は日本がシュート態勢に入ると、すでに2～3人が反撃の行動に移る、いわばディフェンス無視の積極戦法で臨んできた。中国はユーゴ型の「変則1・5シフト」を採り、徹底的に45度へボールを廻させまいとする作戦に引っかけられた。

私自身の反省としては、ここ1、2年、強化合宿の回数が少なかったと思っている。「ナショナル・チーム」としての活動、行動を強化し、一九七〇年代前半のようなムードに今後は持ちこみたい。選手は全力を尽してくれただけに、事前合宿などが不十分だったことを重ねて反省している。

なおレフェリーについては、IHFから派遣されてきたカール・ワン氏（ノルウェー）の評価ではクウェート・ペアが最優秀で7ペア中、韓国が4番目、日本が5番目であった。

▽全日本女子監督について

竹野部長から、昨年6月の「女子有力チームコーチ懇談会」、11月の「強化委員会」さらに「女子コーチ会議」などで昨年5月をもって任期切れとしていた鈴木前監督らコーチ陣の後任について話し合いを進めてもらった結果、井薫氏に再任願うことになったと報告があり、出席者は拍手でこれに応えた。なお、日本協会理事会の承認は12月10日の会議でとりつけており、1月21日荒川専務理事と竹野部長が、井氏の勤務先に承諾を求めたことも報告された。（注・ハンドボール協会は2月18日、監督井薫、樫塚正一、カティツァ・イレシュのスタッフを発表した）

▽全日本男子ヨーロッパ遠征について

竹野部長から2月15日から3月8日まで日本体育協会のバックアップのもとに、全日本男子のヨーロッパ遠征を行なうことが報告され、メンバーについては、アジア大会の代表から津川、斉藤、松井に代り、今回は三本松、尾上、関を起用することを明らかにした。（注・総会後関選手は辞退）。団長は監督（竹野）兼任とし、初めての試みとして、日本リーグ所属男子チームの監督のうち、本場経験の少ない日新・吹上明、大崎・佐藤章治の両氏に「視察員」として同行してもらうことが発表された。

▽全日本男子ジュニアのコーチングスタッフについて

竹野部長から第4回世界ジュニア選手権（予選8月まで、本大会12月）が迫ってきており、監督に本田洋、コーチに早川清孝氏をお願いすると発表された。

◇協議事項

(1)昭和58年度以降の各ナショナルチーム強化の件

主な点は次の通り

・第4回世界女子ジュニア選手権アジア代表決定戦日本―台湾（2試合）は4月20日から5月10日までの間に台湾で行なわれる。

・第4回世界男子ジュニア選手権アジア予選は8月末までに日本、中国、サウジアラビア、クウェート、アラブ首長国連邦、台湾の6カ国で争われるが詳細未定。（日本は開催国としての希望はもっていない）

・ロサンゼルス・オリンピックアジア予選は11月日本で開くように日本協会がアジア連盟に立候補中。アジア連盟は2月の理事会でこの問題を協議する。

・ロサンゼルス・オリンピック女子3大陸代表決定戦は来年2月、アジア代表国にアジア、アメリカ、アフリカ各大陸が集まり行なわれる予定。

・今夏のロサンゼルス・オリンピックプレ大会は男子のみで行なわれるが、日本が招待されるかどうかは不明。

・一九八六年ソウル・アジア大会は女子も初採用が有望。

・一九八六年ソウル・オリンピックを男子14、女子8カ国で実施するようIHFがIOCへ提案中。

・アジア連盟はアジア各国のチャンピオンチームによる「アジア・カップ」のほか「アジア・ジュニア」「アジアユース」「アジア女子選手権」の開催を検討中。

・第3回アジア選手権（男子のみ）は今秋月ソウルで行なわれることがほぼ確定。

(イ)全日本男子の強化について

竹野部長（全日本男子監督）が「アジア大会の反省を含んで、2月のヨーロッパ遠征後は毎月、定期的な強化合宿を行ないたい。

メンバーは今回のヨーロッパ遠征者が主体となろうが、当然チーム内の競争を高めていく。今夏7月と日仏対抗とプレオリンピック出場が実現されれば、一つの仕上りが、そこで果たせる。選手に対しては精神力の強化、ナショナリズム、闘争心を強化し技術的にはディフェンスを個人、チーム両面で見なおし、速攻の安定、シュート力の強化につとめたい。いずれにせよ「勝つチーム」を作らない限り、急迫の中国、韓国を振りはらうことはできないし、日本独得の戦術を再びみがきあげることが急務だ。

(ロ)全日本女子の強化について

新監督となった井委員がまず「厳しい環境の中での指名をうけ時間をかけて考えさせていただいたが、日本協会、勤務先の理解も得たので引き受けさせてもらう。率直な感想としては〝本当に大変だ〟と思う」と挨拶(拍手)した。

このあと、今後の方針として「すさまじいばかりの強化をつとめる韓国、将来性において無限の力を秘める中国を相手にいかに戦うかは、〝やらざるを得ない〟という気持ちでスタートする以外にない。昨冬の第8回世界女子選手権（ハンガリー）で、韓国は6位となったが、その戦いぶりは実にリラックスしており、ソウル・オリンピックを意識しすべての面で、国際ハンドボール(スポーツ)社会への仲間入りを意図していたスタッフもコーチ陣以外に渉外、マスコミ、スカウトなど大人数で編成してきており、世界女子選手権全試合のビデオ・テープをハンガリーから買付ける契約もすでに整っているということだった。

これに対して日本は、毎年のように各チームで主力選手の交替があるし、仮に世界女子選手権に出て、韓国同ようの大成果をあげてもマスコミへの効果などは薄く、その取り扱いも微々たるものだったろう。今後の方針というよりも日本ハンドボール界と女子ナショナルチームという観点から、中国や韓国に勝つチーム造りとともに「スポーツウーマンのさわやかさ」「ファッショナブルなスポーツ」「いい意味での華やかさ」といったカラーを盛りこんだチーム造りを〝もう一方〟の目標に据えて進みたい。それが、若い愛好者たちのナショナルチームへの憧れになることにつながるだろうし、ぜひ皆様の理解と協力を仰ぎたい。

具体的な行動としては、2月中旬までにコーチングスタッフを新編成し、ただちにメンバーをリストアップ、早ければ2月下旬～3月上旬には初合宿を実施したい。さらに5月または7月にヨーロッパ遠征ができればと思っている」

(ハ)全日本男子ジュニアの強化について

本田コーチが、現在、今冬の世界選手権に向けて候補選手のリストアップを急いでいる。

リストは、北岡委員から提供を受けた「高校有望選手」や、私が東西各地の学生界、さらには実業団の若手などから選手したもののほかさらに1月17日締切りで全都道府県協会に推せんで依頼した。厳選された60名近い選手がすでに届出られており、これらの選手を2月20日に東京、大阪に分けて集め、体力テストとルールテストを行ないたい。これには、強化部のほか地方協会のバックアップをお願いしたい。そのあと、世界ジュニア候補として20名内外の選手を決め、4月にホンコンで予定どおり国際ジュニアトーナメントが開かれれば出場したあと8月の予選に向けて強化を進める」と述べ、いずれにしても『大きいだけではないか、力だけではない』といった世評を気にすることはなく、若く、大きく、闘争心に富んだ選手をつねに見つけて、当面、ソウル・オリンピックに向かうことが男子ジュニア最大目的である」と述べた。

(ニ)全日本女子ジュニアについて

鈴木委員長が次のように述べた。「昨日まで小松市で強化合宿を行なっていたが各選手とも技術的にはよいものをもっているが、精神的には難点が多すぎる。この課題を4月の予選までにどう解決するかがカギだ。

現在リストアップされている22名の候補（昭和57年度全日本女子ジュニア）から7～10名の核となる選手をピックアップ、このグループを徹底的に鍛えることも考えている。

ともかくも、今年は韓国、中国が前回（一九八一年・カナダ）の実績でシードされ日本は、台湾に勝ちさえすれば、本大会に出られるだけに、なんとしてもこのチャンスをつかみたい。それが、ソウル・オリンピックあるいは86年の世界女子選手権への展望につながってくる」

さらに鈴木委員長は言葉をつぎ「昨年、一応の成果をあげた高校3年生の有力選手強化合宿を今年も2月21日～24日に実施したい。企業チーム入り、あるいは進学先の決まった選手を対象とするもので、できればこの内から数名を世界ジュニア候補に追加したい」と述べた。

これに関連して、杉山総務から一九八六年のシニアの第9回世界女子選手権のアジア代表は、史上初めて2カ国になることが確定的と報告され、さらに、現在の「昭和57年度全日本女子ジュニア」を意識づけるため、「第4回世界女子ジュニア選手権第一次候補選手」と呼称することを提案、全員了承した。当面の合宿予定は3月10～20日、4月8～18日。

以後協議に入り、

村田委員から「日本協会もミュンヘン・オリンピックを目指していた頃に比べると熱気に欠ける」

市原コーチから「人材の作りかたという、いわば事前手段に欠ける」

杉山総務から「日本協会の事業も活動の大半が頂点強化にあるという意識を役員が持たねば今まで述べられた問題は好転しない」

と発言があった。

また杉山総務から「すべてを日本協会自体の体質の悪さにしてしまうわけにはいかないが、現在のような展望力、行動力の不足では頂点強化に関心を集中させるなどとても無理だと述べた。

ここで東コーチから「ナショナルチーム強化という議題から協議がはずれすぎた。日本協会の体質論が必要なら後刻改めて議論したい」と指摘があり、協議事項(イ)のすべてを完了した。

第4回世界女子ジュニア選手権 第1次候補選手

（昭和57年度全日本女子ジュニア名簿）

		年	cm	（最終出身校）
GK	吉田　肇美（ブラザー工業）	1963. 7.	166	小松市女
	広瀬　悦子（日　体　大）	1963. 3.	172	百合ケ丘
	藤田百合子（大　崎　電　気）	1964. 3.	165	明　石　商
	岡本　典子（武庫川女子大）	1963.10.	174	四天王寺
FP	池上　由美（大　阪　体　大）	1963. 1.	159	枚　　方
	秋成　圭子（大　和　銀　行）	1963. 2.	164	夙川学院
	高木　千秋（筑　　波　　大）	1963. 9.	163	小松市女
	十九江利子（ジ　ャ　ス　コ）	1963.10.	163	有　　磯
	小口　智子（日　　体　　大）	1963.11.	162	水海道二
	若水真由美（大　和　銀　行）	1963.11.	156	夙川学院
	藤田祐美子（北　国　銀　行）	1964. 1.	161	小松市女
	時実　良枝（大　崎　電　気）	1964. 1.	168	明　　石
	中田みゆき（筑　　波　　大）	1964. 2.	163	山　陽　女
	藤田みゆき（大　阪　体　大）	1964. 3.	162	徳　　山
	武藤夕起子（日本ビクター）	1964. 3.	168	大　曲　農
	塩屋　治代（ブラザー工業）	1963. 3.	167	国分実業
	山岸　和子（日　立　栃　木）	1963. 9.	172	高岡向陵
	橋口　弘美（立　石　電　機）	1963. 8.	158	神　埼　農
	大畑千津子（東　女　体　大）	1964. 1.	167	小　林　商
	市川　真子（筑　　波　　大）	1964. 2.	169	橋　　本
	森山恵理子（大　阪　体　大）	1963. 3.	172	四天王寺
	吉岡　典子（日　　体　　大）	1963. 5.	172	岩　国　商

第9回アジア競技大会 男子ハンドボール

（1982年11月24日～30日・インド）

◇上位4カ国相互対戦表

（注・大会は決勝リーグ制で行われたわけではない）

	中国	日本	韓国	クウェート	得点	失点
①中国	＼	24—19	29—28	28—24	81	71
②日本	19—24	＼	21—20	25—20	65	64
③韓国	28—29	20—21	＼	32—22	80	72
④クウェート	24—28	20—25	22—32	＼	66	85

◇このほか日本の記録

日　本　35—19　アラブ首長国連邦

日　本　26—12　インド

◇日本選手団

監督　竹野奉昭，コーチ　平岡秀雄

GK　大畑（本田），井藤（湧永），矢内（国士舘大）

FP　津川，山本，生駒，池上，志賀（以上湧永）蒲生，田口（以上大同），斉藤，長野（以上大崎），西山，高木（以上日新），松井（千葉教員），猪野（本田）。

小学生のハンドボール指導における一考察

―使用するボールの大きさについて―

愛知　角　紘昭

Ⅰ　研究のねらい

ボール運動の中でハンドボールは走、跳、投の運動要素を持ち、しかも、たて15～20m、横30～40mという比較的せまい場所で十分な運動量を得ることができる。

このことから、小学校の児童にこの運動を通して、器用な動きとねばり強い体力を身につけさせるのに適していると考えた。

ところが、実際に指導してみると、次のようなことが見られた。

○パス、シュートが不正確。

○スピードのあるボールを投げることができない。

○ゲームの中ですばやく敵、味方を見分けられない。

これらの原因には、動きながらボールを扱ったり、ボールの操作と敵・味方の判別をほぼ同等に行う訓練が十分にできていないなどのことが考えられる。

そして、その中でも、使用しているボールの大きさ、重さが大きな原因の一つになっているとも考えられるため、ここでは、ボールの扱いに慣れさせ、器用な動きを身につけさせるボールの大きさ、重さと投、捕の関係を明らかにしようと考えた。

Ⅱ　研究の方法と内容

一、方法

(1)投、捕のフォーム分解（モータードライブカメラ使用）

(2)パスの回数調べ

(3)投力調査

(4)質問紙によるアンケート

（調査の対象　小学校四、五、六年の抽出児童四十名）

＜ボールの比較＞　表1

	外周（cm）	重さ（g）
0号　ドッチボール	49 ～ 52	200 ～ 220
教育1号　〃	57 ～ 59	230 ～ 250
教育2号　〃	61 ～ 63	300 ～ 320
女子・少年ハンドボール	54 ～ 56	325 ～ 400
一般男子　〃	58 ～ 60	425 ～ 475

二、内容

(1)投、捕のフォーム分解

図一～四のように、大きい、重いボールを使った場合、両手をそえたり、手のひらに乗せて投げるため、コントロールが悪くなったり、視野がせまく、動作が遅くなったりする。

また、小さい、軽いボールを使った場合には、ボールを手の中で十分にコントロールでき、より正確に投、捕ができることかわかった。

しかし、ボールを受ける時は、特に技能の劣る児童にとって、0号よりすこし大きなボールの方がやりやすいようである。

(2)パスの回数調べ

0、一、二号ボールを使い5m間隔で、30秒間のパスの回数を調べた。

ボールの大小に比べると、男女とも明らかに、ボールが小さいほど回数は多くなっている。

一般的に、女子に比べ男子は、ボール運動が優れているといわれているが、男子の0号と二号ボールのパス回数を比べると、ボールが大きく重くなった方が、回数は著しく減っている。

これは、技能の優れているものでも、ボールが大きく、重くなるとコントロール、身のこなしなどに影響が現れてくるといえる。

(3)投力調査

0、一、二号ボールでの遠投力を調べた結果、表3のようにボールが小さく、手の中でよくコントロールできるものほど、遠くへ投げることができる。

(4)質問紙によるアンケート調

＜ボールの捕＞

図1

技能の劣っている児童（図一）は、0号、一号のどちらのボールを受ける場合でも腹を使っているが、安定して受けているのは、大きいボールの場合である。

図2

技能の優れている児童（図二）は手の中に入る0号ボールを受ける場合には、手首をよくおこして受けているが、大きいボールになると、はさみつけるような受け方をする。

査

これまでの調査により、パスの回数、遠投などは、いずれも0号ボールを使用した方がよい結果がでることがわかった。

ここで、実際に投げたり捕ったりした時のボール扱いの感想を質問紙によって調べてみた。

男子の場合、投げやすく受けやすいボールは0号ボールに集中している。

女子の場合は、投げやすいボールボールは0、一号ボールで、受けやすいボールは一号ボールというように分れている。

一般的に技能を劣っている女子にとって、ボールを受けるとき、0号ボールでは小さすぎて受けにくいことを示している。

〈ボールの投〉

技能の劣っている児童の場合、0号ボールを投げる時は、ボールを手の中でコントロールしているが、二号ボールでは、手のひらにのせているだけである。また、その場合、手のひらの上のボールのバランスをとるために、ひじが下がり、からだも傾け、非常に不安定なフォームになっている。

図3

0号ボール

2号ボール

技能の優れている児童の場合（図四）0号ボールを投げる時、ボールは手の中でしっかりとコントロールされ、ひじも上がってよいフォームとなっている。しかし、二号ボールの場合は、手の中で十分コントロールされていないため、左手をそえている。

これでは、視野が狭くなってしまう。

図4

0号ボール

2号ボール

Ⅲ　まとめ

これまでの調査から、小学校のハンドボール指導では、児童の運動能力を十分に発揮させ、技能を高めさせるには、0号ボールのように、小さなボールの方がよりよいといえる。しかし、図一、表四からわかるように、ボールを受ける場合には0号ボールでは、やや小さすぎることもわかった。

これは、使用したボールが0、一号ボールであったためで、0、一号ボールの間のボール（53～56cm、220～240g）があればより詳しいことがわかったと思われる。

今後の問題点として考えられることは、次の点であろう。

◎小学生を対象としたハンドボール用のボールを決めること。

◎ボールの型を決める際に、学校体育で使われている教育ドッチボールとのかね合いをどうするか。

<ボール扱いに関するアンケート>　表4

		0号	1号	2号
男子	いちばん投げやすいボールは？	50%	30	20
	いちばん受けやすいボールは？	77	11	12
女子	いちばん投げやすいボールは？	54	32	14
	いちばん受けやすいボールは？	22	72	6

<遠投力調査>　表3

	0号	1号	2号
男子	21.2 m	20.1	19.3
女子	12.3	11.8	11.6

<30秒パスの回数調べ>　表2

	0号	1号	2号
男子	13.7回	11.9	10.3
女子	10.3	9.9	9.2

	総務・広報	大会 ( )は競技日程 ※印は開会式	競技・普及	強化部 (△ 男子 ○ 女子)	国際
10	○第2回全国理事長会議 ○機関紙編集委員会 ○常務理事会	○第38回国民体育大会 (16~20　富岡市) ※15日	○ハンドボール競技研修会 (17　富岡市) ○ルール研究委員会	○△第5次合宿 (　) ○△ジュニア第4次合宿 (　) ○○第4次合宿 (　)	○第4回世界女子ジュニア選手権 (14~23　フランス)
11	○顧問・参与会議 ○第2回定例評議員会 ○第3回理事会 ○機関紙編集委員会 ○常務理事会	○第26回全日本学生 (16~20　仙台市)	○ルール研究委員会	○△ジュニア第5次合宿 (　)	○ロサンゼルスオリンピックアジア予選 (男　女) (　)
12	○機関紙編集委員会 ○常務理事会	○第35回全日本総合 (14~18　東京体育館)	○ルール研究委員会	○第3回コーチ会議 (男子　) (女子　) ○○第5次合宿 (　)	○第4回世界男子ジュニア (2~12 フインランド)
59年1	○機関紙編集委員会 ○常務理事会	○第3回オールスター戦 (　東　京)	○AB級公認審判審査 (21~23　熱海市) ○審判部合同委員会 (21~23　熱海市) ○ルール研究委員会	○△第6次合宿 (　) ○○第6次合宿 (　)	
2	○機関紙編集委員会 ○常務理事会	○第15回全日本実業団トーナメント (9~12　大分市又は呉市)	○公認コーチ研修会 (中旬　東　京) ○公認審判員研修会 (ブロック) (2月~3月　東　京) ○ルール研究委員会	○女子有力高校選手研修合宿 (　)	○全日本男子ヨーロッパ遠征 (　) ○ロサンゼルス・オリンピック女子3大陸代表決定戦 (2月又は3月 アジア代表国)
3	○第4回理事会 ○機関紙編集委員会 ○常務理事会	○第6回全国高校選抜 (24~28愛知県体育館)	○ルール研究委員会	○第3回強化委員会 (　) ○△ジュニア第6次合宿 (　) ○○ジュニア第5次合宿 (　)	

昭和58年度　事業計画予定表

	総務・広報	大会（　）は競技日程 ※印は開会式	競技・普及	強化部（△男子 ○女子）	国際
58年4	○第1回理事会 ○第1回全国理事長会議 ○機関紙編集方針会議 ○常務理事会		○第7回JHAレフェリーコース・前期 (3/28～30　日体協) ○ルール研究委員会 ○レフェリー海外研修 国際審判員研修会 (月日未定)	○第1回コーチ会議 (男子　女子　) ○△ジュニア第1次合宿 (　) ○○第1次合宿 (　) ○○ジュニア第1次合宿 (　)	○第4回世界ジュニアアジア予選― 開催月未定 (男子8/31までに終了) (女子5/31までに終了) ○アジアHB招待大会 (男子ジュニア) (1～3　香港)
5	○機関紙編集委員会 ○常務理事会	○第24回全日本実業団 (男子5/1～3名古屋市) (女子25～27　大阪市)	○AB級公認審判テスト (A・下旬　東京) (B・15～16　大分市) ○ルール研究委員会 ○「国民スポーツ」プロジェクトチーム会議 (　東京)	○トレーニングドクター群会議 (　) ○第1次強化委員会 (　) ○△第1次合宿 (　) ○△ジュニア第2次合宿 (　) ○○ジュニア第2次合宿 (　)	○IHFトレーナー、レフェリー講習会 (18～24　ザールブルッケン)
6	○第1回定例評議委員会 ○第2回理事会 ○機関紙編集委員会 ○常務理事会	○第8回日本リーグ前期 (10～26　各地) 開幕戦10日～ 東京体育館 ○第15回全日本自衛隊 (28～30　駒沢体育館)	○ルール研究委員会 ○AB級公認審判テスト (A・上旬　東京) (B・11～12　京都市) (B・24～25　千葉県)	○強化部総会 (　) ○△第2次合宿 (　)	○全日本女子ジュニアヨーロッパ遠征 (　)
7	○機関紙編集委員会 ○常務理事会	○第3回全国クラブ (22～24　岐阜) ○第10回全国高専 (29～30　福井)	○教員養成大学学生研修会(下旬　茨城) ○「国民スポーツ」プロジェクトチーム会議 (　東京) ○ルール研究委員会	○第2回男子コーチ会議 (　) ○○第2次合宿 (　)	○全日本女子ヨーロッパ遠征 ○第11回インテラムニアカップ(2～11) ○フランス招待 (下旬　各地)
8	○機関紙編集委員会 ○常務理事会	○第34回全日本高校 (1～7　豊田市) ○第26回全日本教職員 (7～11　生駒市) ○第12回全国中学校 (21～24　札幌市)	○ハンドボール競技研修会(8日　生駒市) ○第7回JHAレフェリーコース・後期 (23～25　東京) ○ルール研究委員会	○第2回女子コーチ会議 (　) ○△第3次合宿 (　) ○△ジュニア第3次合宿 (　) ○○第3次合宿 (　) ○○ジュニア第3次合宿 (　)	○プレオリンピックトーナメント (男子のみ　ロサンゼルス) ○日韓学生交流 (　) ○日韓高校交流 (16～20日の間東京)
9	○機関紙編集委員会 ○常務理事会	○第8回日本リーグ後期 (11～10/2　各地)	○ルール研究委員会	○第2回強化委員会 (　) ○△第4次合宿 (　) ○○ジュニア第4次合宿 (　)	○第3回アジア選手権 (中旬　ソウル) ○ニューカレドニア代表チーム来日 (　学連) ○日ソ・日独交流

各地の記録

◇第27回京都高校新人大会

（11月3〜28日）

＜男子＞

▽予選リーグ

○Aゾーン

洛星 22－3 舞鶴工専
西宇治 18－3 同志社
向陽 22－8 舞鶴工専
洛星 24－2 同志社
向陽 15－5 西宇治
西宇治 13－8 舞鶴工専
向陽 10－7 洛星
向陽 12－8 同志社
洛星 8－7 西宇治
同志社 10－8 舞鶴工専

○Bゾーン

北嵯峨 18－8 洛陽工
乙訓 18－10 塔南
洛陽工 19－16 城南
北嵯峨 19－5 塔南
乙訓 21－9 洛陽工
北嵯峨 22－8 城南
北嵯峨 15－12 乙訓
城南 15－12 塔南
乙訓 21－13 城南
塔南 17－7 洛陽工

○Cゾーン

洛北 11－10 洛東
嵯峨野 15－12 城陽
城陽 14－9 洛北
洛東 13－7 平安
嵯峨野 25－5 洛東
洛北 12－11 平安
嵯峨野 16－11 洛北
城陽 21－15 平安
嵯峨野 19－10 平安
城陽 25－10 洛東

○Dゾーン

東宇治 30－13 桃山
大谷 20－3 田辺
桃山 29－12 田辺
東宇治 23－7 大谷
桃山 16－15 大谷
東宇治 25－7 田辺

○Eゾーン

京都商 23－6 鴨沂
洛水 17－10 桂
京都商 17－14 洛水
京都商 13－6 桂
洛水 30－15 鴨沂
桂 14－14 鴨沂

○Fゾーン

堀川 9－6 日吉ケ丘
東山 19－7 伏見工
伏見工 18－13 堀川
東山 22－3 日吉ケ丘
伏見工 16－13 日吉ケ丘
東山 18－7 堀川

▽準決勝リーグ

○Aゾーン

東宇治 19－6 北嵯峨
東宇治 17－11 嵯峨野
嵯峨野 14－13 北嵯峨

○Bゾーン

東山 21－6 京都商
向陽 17－13 京都商
東山 16－12 向陽

▽決勝トーナメント準決勝

東宇治 22（12－9、10－5）14 向陽
東山 16（7－4、9－7）11 嵯峨野

▽決勝

東山 18（8－3、10－7）10 東宇治

＜女子＞

▽予選リーグ

○Aゾーン

乙訓 6－5 久御山
洛水 8－6 西宇治
乙訓 15－6 城南
洛水 9－4 久御山
城南 8－6 西宇治
久御山 7－6 西宇治
洛水 13－8 城南
乙訓 16－3 西宇治
城南 7－3 久御山
乙訓 15－2 洛水

○Bゾーン

西山 8－5 北嵯峨
光華 17－11 洛東
光華 10－2 西山
光華 13－4 北嵯峨
西山 13－4 洛東
北嵯峨 13－9 洛東

○Cゾーン

明徳商 22－3 城陽
西京商 14－3 鴨沂
鴨沂 8－3 城陽
明徳商 18－6 鴨沂
西京商 13－3 城陽
明徳商 8－4 西京商

○Dゾーン

東宇治 17－8 京都女
精華 11－2 洛北
東宇治 18－2 洛北
京都女 14－9 洛北
東宇治 16－4 精華
京都女 16－0 精華

○Eゾーン

田辺 10－4 桂
塔南 18－14 東稜
塔南 26－7 田辺
塔南 15－2 桂
東稜 18－3 田辺
東稜 14－2 桂

○Fゾーン

向陽 10－5 嵯峨野
桃山 15－12 京都商
向陽 17－8 京都商
嵯峨野 14－4 京都商
向陽 26－4 桃山
嵯峨野 21－7 桃山

▽準決勝リーグ

○Aゾーン

東宇治 11－4 向陽
東宇治 12－9 塔南
向陽 12－6 塔南

○Bゾーン

乙訓 8－6 光華
乙訓 13－12 明徳商
明徳商 10－9 光華

▽決勝トーナメント準決勝

東宇治 15（5－5、10－4）9 明徳商
向陽 9（5－3、4－3）6 乙訓

▽決勝

東宇治 10（5－3、5－4）7 向陽

◇千葉県実業団秋季リーグ戦

（11月6、7、14日）

▽一部

日産 23（12－13、11－9）22 出光
三石 不戦勝 東電
日産 26（14－9、12－5）14 木補所
三石 35（17－5、18－10）15 出光
出光 34（19－6、15－8）14 東電
下総 32（16－4、16－7）11 日産
三石 38（18－7、20－6）13 木補所
下総 43（23－5、20－3）8 東電
木補所 29（15－4、14－8）12 東電
三石 27（16－8、11－8）16 日産
下総 41（22－10、19－11）21 出光
下総 35（19－12、16－12）24 木補所
日産 30（11－11、19－8）19 東電
出光 36（19－6、17－8）14 木補所
下総 27（11－7、16－10）17 三石

（順位）①海自下総②三井石油化学千葉③日産石油化学④出光千葉⑤海自木補所⑥東京電力千葉

▽2部

丸善石油 44（25－6、19－4）10 海自館山

（順位）①丸善石油千葉②海自館山

▽入れ替え戦

丸善石油 34（14－5、20－3）8 東電千葉

※丸善は一部リーグ昇格

◇第19回宮崎県総合選手権大会

（1月15、16日）

＜男子1部＞

▽1回戦

宮崎工高 12－0 都城商高OB
宮崎大 18－9 西都ク
宮工ク 15－10 日南ク

▽2回戦

宮崎教員 34－11 都城高専
泉丘会 23－13 宮崎工高
宮崎大 22－10 宮崎西愛球会
小林ク 20－12 宮工ク

▽準決勝

宮崎教員 19（12－8、7－8）16 泉丘会
小林ク 21（2－2、4－3、9－5、6－10）20 宮崎大

▽決勝

宮崎教員 30（11－16、19－13）29 小林ク

＜男子2部＞

▽1回戦

田野ク 18－10 諸塚ク
宮崎第一高A 17－10 日南工高
都城スポーツ成年団 17－14 田野中
西郷ク 10－5 県健康増進センター

▽2回戦

田野ク 26－9 北郷ク
宮崎西高 12－0 宮崎第一高B
延岡高 33－11 都城商高
宮崎第一高A 12－0 日南高
都城スポーツ成年団 19－15 都城西高
都城工高 20－10 日向ク
小林工高 26－6 日南工高
西都商高 13－11 西郷ク

▽準々決勝

田野ク 24－18 宮崎西高
延岡高 32－5 宮崎第一高A
都城工高 19－17 都城スポーツ成年団
小林工高 21－10 西都商高

▽準決勝

田野ク 27（11－14、16－8）22 延岡高
小林工高 30（17－9、13－5）14 都城工高

▽決勝

田野ク 23（13－11、10－6）17 小林工高

＜女子＞

▽1回戦

田野中 21－1 妻高
都城商高B 13－13 延岡商高
3PTC1

▽2回戦

小林商高 28－6 田野中
都城商高A 18－10 宮崎南高
本庄高 23－0 西都商高
全宮崎ク 23－6 都城商高B

▽準決勝

小林商高 28（16－3、12－3）6 田野中
全宮崎ク 20（12－7、8－6）13 本庄高

▽決勝

小林商高 13（7－6、6－3）9 全宮崎ク

◇青森県社会人秋季大会

（11月27、28日）

▽1回戦

青森陸上自衛隊 24－23 弘前大
青森教員ク 32－25 野辺地ク
野辺地工OB 17－14 紫球会
海自第2空群 21－18 尾上ク

▽2回戦

七戸ユニオン 36－16 青森陸上自衛隊
青森教員ク 31－24 弘前ハンドボールク
紫球会 14－13 青商ク
青森ク 40－27 海自第2空群

▽準決勝

七戸ユニオン 34（18－15、16－16）31 青森教員ク
青森ク 34（19－7、15－7）14 紫球会

▽決勝

青森ク 33（21－9、12－9）18 七戸ユニオン

◈愛媛県高校新人大会

（12月24、25日）

＜男子＞

▽1回戦

新田 15－13 今治南
今治西 17－5 松山南
松山北 28－2 新居浜西
宇和島南 21－14 新居浜工

▽準決勝

今治西 29（15－6、14－3）9 新田
松山北 16（11－4、5－5）9 宇和島南

▽決勝

今治西 14（10－5、4－8）13 松山北

＜女子＞

▽1回戦

大島 8－7 東温
今治南 15－6 伊予農
新居浜商 21－3 松山商
今治北 15－1 松北中島

▽準決勝

大島 11（3－1、8－4）5 今治南
今治北 14（6－1、8－2）3 新居浜商

▽決勝

今治北 12（4－4、8－2）6 大島

◇全国高校選抜大会鳥取県予選

（12月26、27日）

＜男子＞

▽1回戦

倉吉東 18－12 倉吉工
米子西 31－24 米子北

▽準決勝

米子東 13（10－8、3－4）12 倉吉東
境 30（16－8、14－4）12 米子西

▽決勝

境 20（10－3、10－2）5 米子東

＜女子＞

▽1回戦
境 14－3 米子東
倉吉西 キケン 倉吉産
▽準決勝
境 7（2－5、5－0）5 米子北
米子南商 19（13－0、6－1）1 倉吉西
▽決勝
境 9（8－3、1－5）8 米子南商

◈第17回佐賀県室内総合選手権

（12月19、26、27日、1月23日）

＜小学生男子＞
▽1回戦
BSスポーツ少年団 11－4 神埼バンド教室松組
A多久北部小 6－1 B三田川球友会
B多久北部小 6－1 三田川ミニバンドク
神埼バンド教室竹組 6－2 A三田川球友会
▽準決勝
BSスポーツ少年団 6（2－4、4－0）4 多久北部小A
神埼バンド教室竹組 10（5－1、5－4）5 多久北部小B
▽決勝
BSスポーツ少年団 6（0－2、6－1）3 神埼バンド教室竹組

＜小学生女子＞
▽決勝
厳木小広川分校 5（1－1、4－2）3 BSスポーツ少年団

＜中学生男子＞
▽1回戦
多久北部中B 15－0 基山中B
城西中 14－1 千代田ク
▽2回戦
多久北部中B 13－10 神埼中A
成章中 10－9 永瀬愛球会
多久北部中A 21－12 三田川球友会
城西中 10－9 基山中A
▽準決勝
多久北部中B 15（6－4、9－2）6 成章中
多久北部中A 10（7－2、3－6）8 城西中
▽決勝
多久北部中B 10（7－2、3－6）8 多久北部中A

＜中学生女子＞
▽1回戦
神埼中B 7－6 千代田中
▽決勝
神埼中A 13（5－0、8－1）1 神埼中B

＜高校男子＞
▽1回戦
神埼高 15－6 佐賀東高
▽準決勝
神埼高 22（12－3、10－3）6 佐賀西高
神埼農高 13（5－4、8－0）4 佐賀農高
▽決勝
神埼農高 13（6－5、7－4）9 神埼高

＜高校女子＞
▽1回戦
佐賀女高 12－5 神埼高
▽準決勝
佐賀女高 12（6－1、6－4）5 嬉野商高
神埼農高 16（8－2、8－1）3 佐賀東高
▷決勝
神埼農高 11（4－1、7－0）1 佐賀女高

＜一般男子・一部＞
▽1回戦
川原ク 16－6 神埼OB
佐賀農OB 11－2 佐賀商OB
▽2回戦
竜登園ク 17－10 川原ク
佐賀教員 24－12 炭礦公害ク
白石ク 18－13 佐賀東ク
鵲友ク 19－13 佐賀農OB
▽準決勝
竜登園ク 18（11－9、7－5）14 佐賀教員
鵲友ク 21（12－6、9－8）14 白石ク
▽決勝
竜登園ク 19（9－7、10－4）11 鵲友ク

＜一般男子・二部＞
▽1回戦
久保田町役場 11－0 ピオキノ
神埼パトラーズ 14－12 ルースターズ
千代田ク 12－2 オールド教員
嬉野商教員 21－6 ヨロズヨ工務店
▽2回戦
総合グランド 11－8 久保田町役場
神埼パトラーズ 13－8 サンダーバード
教育庁 12－9 千代田ク
嬉野商教員 16－7 英国屋
▽準決勝
神埼パトラーズ 24（11－5、13－5）10 総合グランド
教育庁 15（9－6、6－6）12 嬉野商教員
▽決勝
教育庁 22（10－8、12－5）13 神埼パトラーズ

＜一般女子＞
▽1回戦
神農ク 10－9 ミス&ミセス
ポップク 12－8 佐賀女OG
▽準決勝
神農ク 8（1－0、5－5、2－2）7 佐賀ク
ポップスク 14（7－2、7－1）3 ママさんク
▽決勝
ポップスク 11（6－4、5－3）7 神農ク

◇第23回群馬県総合選手権

（1月15、16日）

＜男子＞
▽1回戦
吉井高OB 25－8 甘楽ク
吉井ク 26－12 桐生高
▽2回戦
富岡高OB 33－19 前橋高
前橋ク 18－11 富岡市役所
富岡高 32－5 桐生ク
吉井高OB 31－24 前橋商OB
吉井ク 27－19 藤岡ク
前橋市役所 35－13 群大ク
群馬教員 34－31 下仁田高OB
富岡ク 28－26 前橋商
▽準々決勝
富岡高OB 41－19 前橋ク
富岡高 25－17 吉井クOB
前橋市役所 25－13 吉井ク
富岡ク 29－28 群馬教員
▽準決勝
富岡高OB 21（11－8、10－10）18 富岡高
富岡ク 22（10－10、12－9）19 前橋市役所
▽決勝
富岡ク 26（14－12、12－11）23 富岡高OB

＜女子＞
▽1回戦
吉井高 23－11 群女短附OG
吉井高OG 16－8 下仁田高OG
▽準々決勝
高崎スカイライン 19－8 下仁田高
吉井高 28－7 前橋ピジョンズ
群女短附高 11－7 吉井高OG
光電ク 20－11 高崎市女
▽準決勝
吉井高 26（14－7、12－6）13 高崎スカイライン
光電ク 21（8－2、13－2）4 群女短附高
▽決勝
光電ク 14（1－1、2－2、4－7、7－4 PTC 3－0）14 吉井高

くらし、ひろげるジャスコのカード
ファッションから食品まで
サインひとつでお買物――。
ご入会手続きも簡単です。お気軽にお申込みください。
会員募集中
JUSCO CARD
1234-5678A-1234
お支払いもいろいろ
●月々のお支払いがラクな
リボルビング払い
●手数料なしのおトクな
一回払い
●お求めはいま、お支払いは
ボーナス一括払い
●一部地域により取扱っていない
場合もございます。
お申し込み、お問い合せは、ジャスコ各店
サービスカウンター又は、販売員におたず
ねください。
ジャスコ

株式会社アシックス

ストップ&ジャンプ自在。

グリップ力抜群のニューソール装備、新製品〈スカイハンドスペシャル〉

アシックスタイガーの新製品 スカイハンドスペシャル はストップ&ジャンプが自在にできるハンドボール専用シューズです。
写真の底意匠にご注目ください。複雑なトレッド(溝)をソール全面に刻み込んでいます。これは、ハンドボール特有の、多角的な動きに対応するためで、とくに拇指球下のリング状意匠はグリップ力を飛躍的に高めます。このため、選手は思うようにストップでき、また思うようにジャンプすることができます。
●甲被はステア表革と銀付ベロアの2タイプ。●独創のカップソールは甲被を食わえ込む設計で、足ブレを防ぎます。●大型ヒールカウンターはカカトをガッチリ保持し、選手の動作能力を高めます。
●軽さ、クッション性も卓越。
ストップ&ジャンプの スカイハンドスペシャル で栄光をつかんでください。

スカイハンドスペシャル

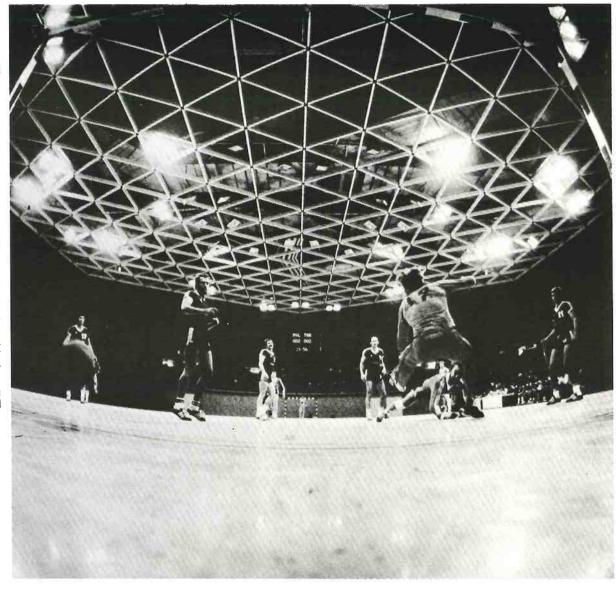
スカイハンド スペシャル(THH705) **NEW**

●甲被はステア表革(ホワイト)、銀付ベロア(レッド、ロイヤルブルー)。裏地はナイロン。●アウターソールはラバーのカップソール。●ロイヤルブルー×ホワイト、ホワイト×レッド、レッド×ホワイト。●サイズ 22.5~28.0cm

標準小売価格 ¥12,000

(財)日本ハンドボール協会編
「ハンドボール」
第二一七号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和五八年三月二十五日 印刷
昭和五八年四月一日 発行
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 (467)七〇九七
振替 六ー五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価三百五拾円
(年間購読料三千三百円)

ドラマは「アディダス」と共にやってくる。

3063 HANDBALL SPECIAL
ハンドボールスペシャル
¥12,000(標準小売価格)
●ホワイト×ブルー
3064●ホワイト×レッド
3065●ホワイト×ブラック
もあります。

世界選手権。オリンピック。ヨーロッパカップ。ゲームが高度になればなるほどアディダスの真価は100%発揮されます。鍛えぬいた実力を、大切な一戦で確実に引き出してくれるハンドボールシューズ・ウェア。世界の強豪、そしてわれわれが〈スリー・ストライプス〉を選ぶ理由は、ただ一つ、勝利への熱い意欲です。

株式会社デサント/兼松スポーツ用品株式会社